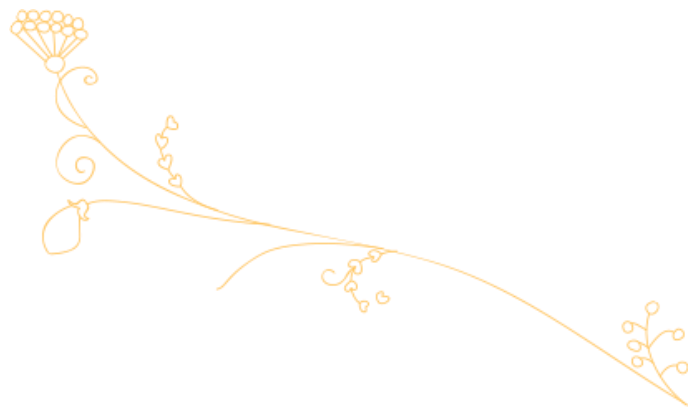




2021年12月期 決算説明資料

2022年2月
株式会社セレス（東証第一部：3696）





1. 会社概要
2. 連結決算の概要
3. 各事業の業績について
4. 中期経営計画2026
5. 2022年12月期の事業戦略
6. APPENDIX



1. 会社概要

インターネットマーケティングを通じて 豊かな世界を実現する

セレスは、社会インフラとなったインターネットを通して、様々なマーケティングサービスを提供することにより、豊かな社会生活の実現をはかります。

トークンエコノミーを創造

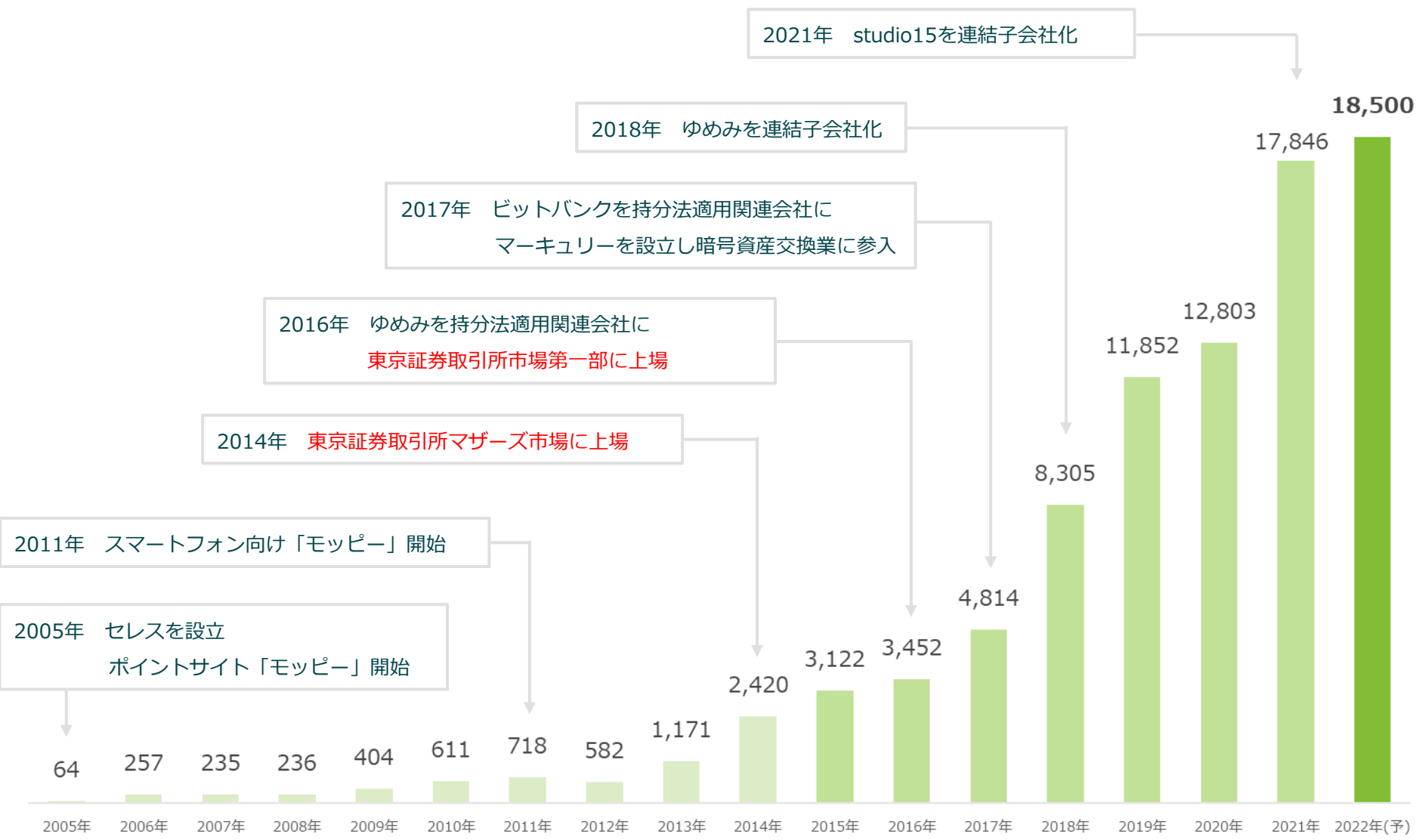


ceres

CERESとはギリシャ神話の「大地の女神」、「五穀豊穡の神」。
CERESはローマ名で、ギリシャ名はDemeter（デメテル）。

会社名	株式会社セレス
設立年月日	2005年1月28日
所在地	東京都世田谷区用賀四丁目10番1号 世田谷ビジネススクエア タワー24F
決算期	12月
資本金	19億4,447万円（2021年12月末現在）
代表者	代表取締役社長 都木 聡
従業員数（連結）	466名（2021年12月末／臨時雇用者含む）
事業内容	モバイルサービス事業 フィナンシャルサービス事業
連結子会社	株式会社マーキュリー、株式会社バックラス、株式会社ディアナ、 株式会社ラボル、studio15株式会社、株式会社ゆめみ
持分法適用関連会社	ビットバンク株式会社

セレスの沿革



※ 2022年12月期より「収益認識に関する会計基準」が適用になり、2015年12月期数値から新収益認識基準に則った売上高を掲載



2. 連結決算の概要

業績予想に対する達成状況

(単位：百万円)	2021年12月期	連結業績修正予想※1 (2021/12/23発表)	期初連結業績予想 (2021/2/12発表)	期初予想達成率
売上高	23,402	23,800	23,800	98.3%
営業利益	2,305	2,400	2,000	115.3%
経常利益	3,499	3,600	2,600	134.6%
当期純利益※2	2,775	3,000	1,600	173.5%
EBITDA※3	4,693	4,850	3,000	156.5%

- ・ 売上高はモッピーとゆめみがけん引し業績予想をほぼ達成
- ・ 営業利益はモッピーとCVCの利益が貢献し、マーキュリーの537百万円D2Cの177百万円の先行投資赤字分を吸収し115.3%と超過達成
- ・ 経常利益はビットバンクの持分法投資利益963百万円が寄与して大幅増益
- ・ 当期純利益は減損損失計上も持分変動利益あり予想比173.5%の達成率

※1 2021年2月12日に連結業績予想を発表し、2021年8月11日、2021年9月2日、2021年12月23日に連結業績予想の修正を発表しております。

※2 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※3 EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

損益計算書の概要

(単位：百万円)	2021年12月期	2020年12月期	前年同期比
売上高	23,402 (100.0%)	20,213 (100.0%)	+15.8%
売上総利益	7,773 (33.2%)	6,246 (30.9%)	+24.4%
販売費及び一般管理費	5,467 (23.4%)	4,749 (23.5%)	+15.1%
営業利益	2,305 (9.9%)	1,496 (7.4%)	+54.0%
経常利益	3,499 (15.0%)	1,816 (9.0%)	+92.7%
当期純利益※1	2,775 (11.9%)	744 (3.7%)	+272.7%
EBITDA※2	4,693 (20.1%)	2,032 (10.1%)	+130.9%

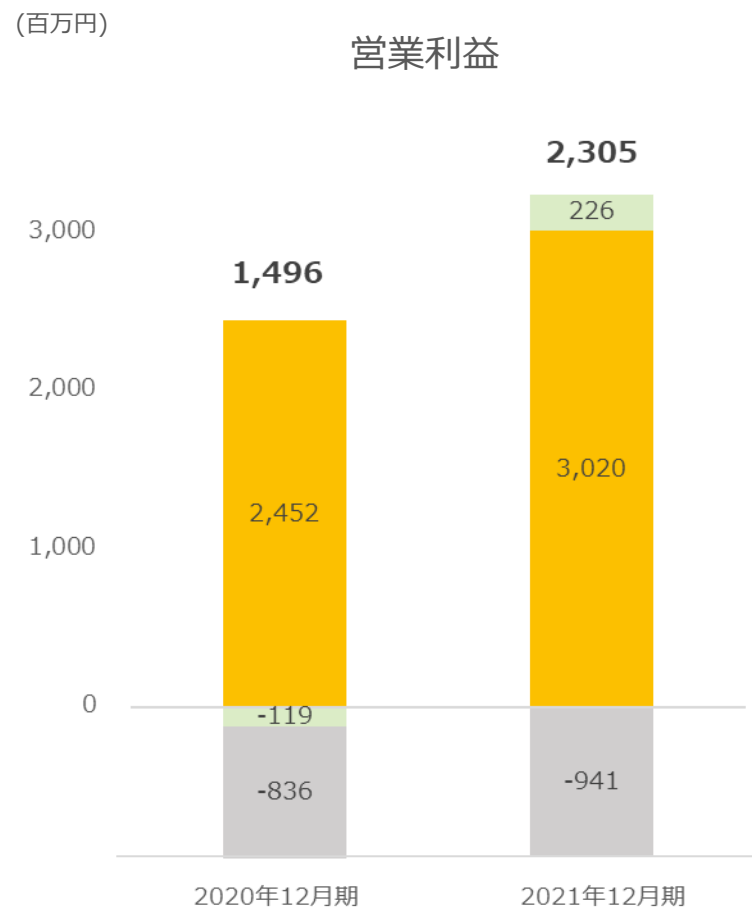
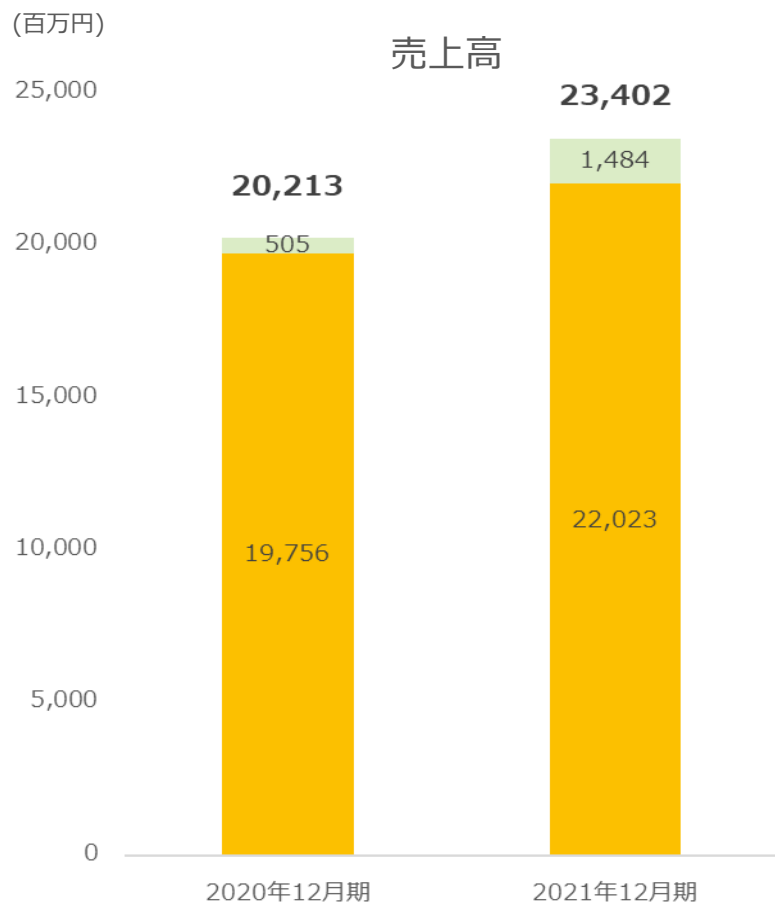
※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

セグメント別売上高

(単位：百万円)	2021年12月期	2020年12月期	前年同期比
売上高	23,402 (100.0%)	20,213 (100.0%)	+15.8%
モバイルサービス事業	22,023 (94.1%)	19,756 (97.7%)	+11.5%
ポイントメディア	8,952 (38.3%)	5,764 (28.5%)	+55.3%
アフィリエイト	6,283 (26.8%)	8,052 (39.8%)	-22.0%
コンテンツメディア	3,599 (15.4%)	2,820 (14.0%)	+27.7%
ゆめみ	3,714 (15.9%)	3,118 (15.4%)	+19.1%
セグメント内の振替高	-526 (-)	- (-)	-
フィナンシャルサービス事業	1,484 (6.3%)	505 (2.5%)	+193.9%
セグメント間の内部売上高又は振替高	-105 (-)	-47 (-)	-

モバイルはポイント・ゆめみの好調により前年比11.5%増収・23.2%増益 フィナンシャルはCVCがマーキュリーの先行投資を吸収し営業黒字に



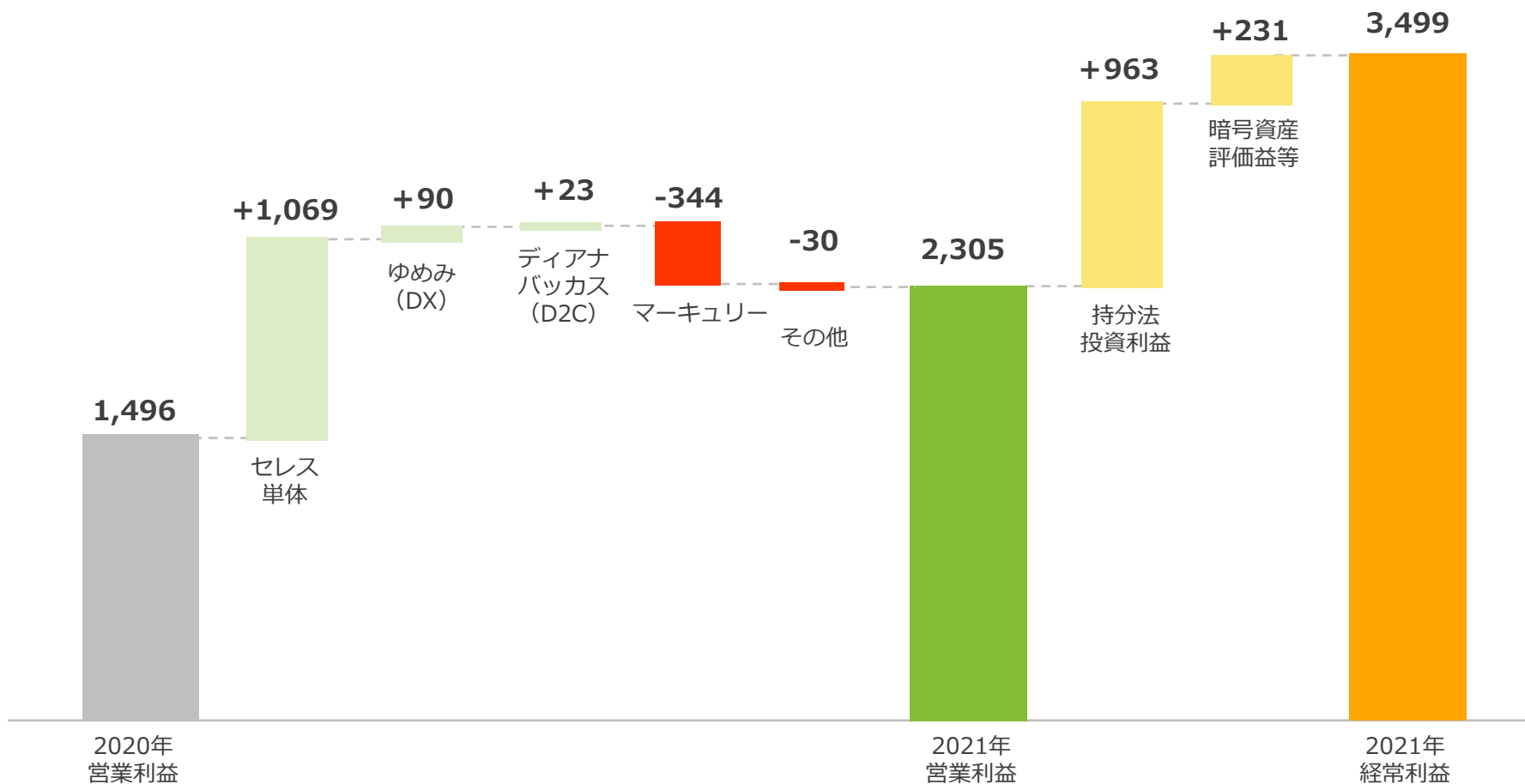
■ モバイルサービス ■ フィナンシャルサービス

■ モバイルサービス ■ フィナンシャルサービス ■ 調整額

※ セグメント間の内部売上高又は振替高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

セレスのモッピー・CVCとゆめみの増益が先行投資をカバーし営業増益 暗号資産市場の活況によりBBの業績と暗号資産評価益が経常増益に貢献

(百万円)





売上高は両セグメントの伸長により前年比15.8%増

- ・ポイントはユーザー増と金融系広告の需要取り込みにより前年比55.3%増収
- ・アフィリエイトは個人情報保護と消費者保護の影響で苦戦し前年比22.0%の減収
- ・コンテンツは既存事業が苦戦するも、D2Cの成長が寄与し前年比27.7%増収
- ・フィナンシャルはCVCでの株式売却・アーンアウトが貢献し前年比約3倍に

営業利益は先行投資を継続も過去最高を更新し2,305百万円

- ・モバイルはポイント・コンテンツ・ゆめみが貢献し前年比23.2%増の3,020百万円
- ・フィナンシャルはCVCでの株式売却・アーンアウトに伴う利益が
マーキュリーの先行投資（▲537百万円）の赤字分を吸収し226百万円の営業黒字に

経常利益は前年比約2倍の過去最高益3,499百万円で着地

- ・ビットバンクの持分法投資利益963百万円が寄与
- ・当期純利益は減損損失352百万円発生もビットバンクにかかる持分変動利益880百万円を計上し前年比3.7倍の過去最高益2,775百万円
- ・EBITDAは前中期経営計画の3,000百万円を達成し過去最高益4,693百万円

損益計算書の概要（第4四半期）

(単位：百万円)	第4四半期 (2021年10-12月)	前年同期 (2020年10-12月)	前年同期比	第3四半期 (2021年7-9月)	前四半期比
売上高	5,181 (100.0%)	5,631 (100.0%)	-8.0%	5,353 (100.0%)	-3.2%
売上総利益	1,431 (27.6%)	1,950 (34.6%)	-26.6%	1,805 (33.7%)	-20.7%
販売費及び 一般管理費	1,368 (26.4%)	1,702 (30.2%)	-19.6%	1,238 (23.1%)	+10.5%
営業利益	62 (1.2%)	248 (4.4%)	-74.8%	567 (10.6%)	-89.0%
経常利益	135 (2.6%)	508 (9.0%)	-73.4%	736 (13.8%)	-81.6%
四半期純利益※1	-308 (-)	97 (1.7%)	-	1,286 (24.0%)	-
EBITDA※2	212 (4.1%)	574 (10.2%)	-62.9%	1,702 (31.8%)	-87.5%

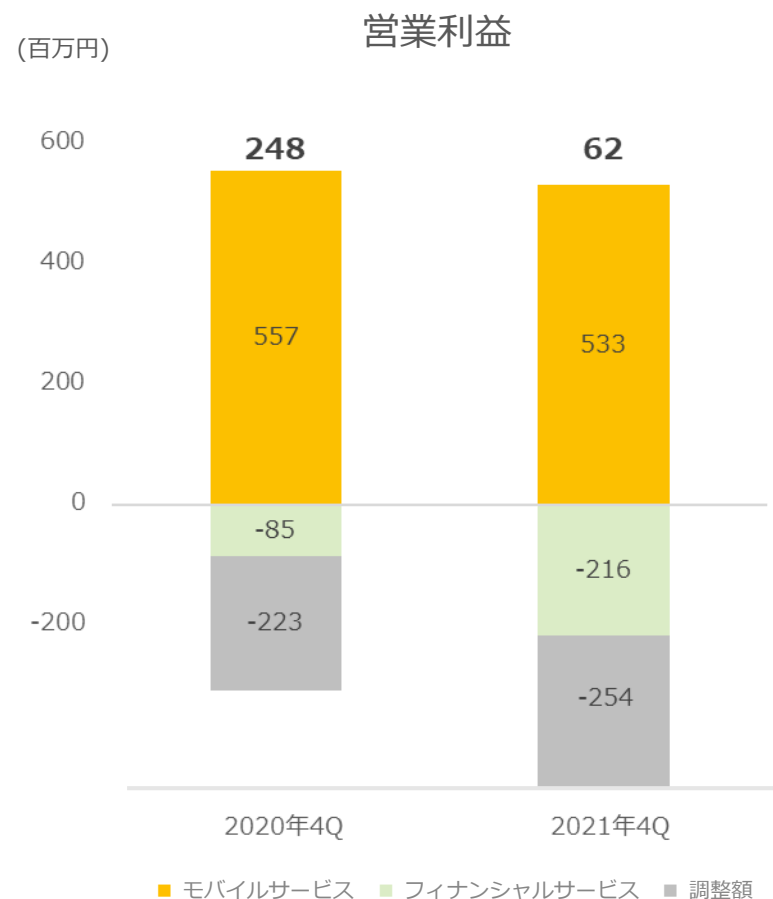
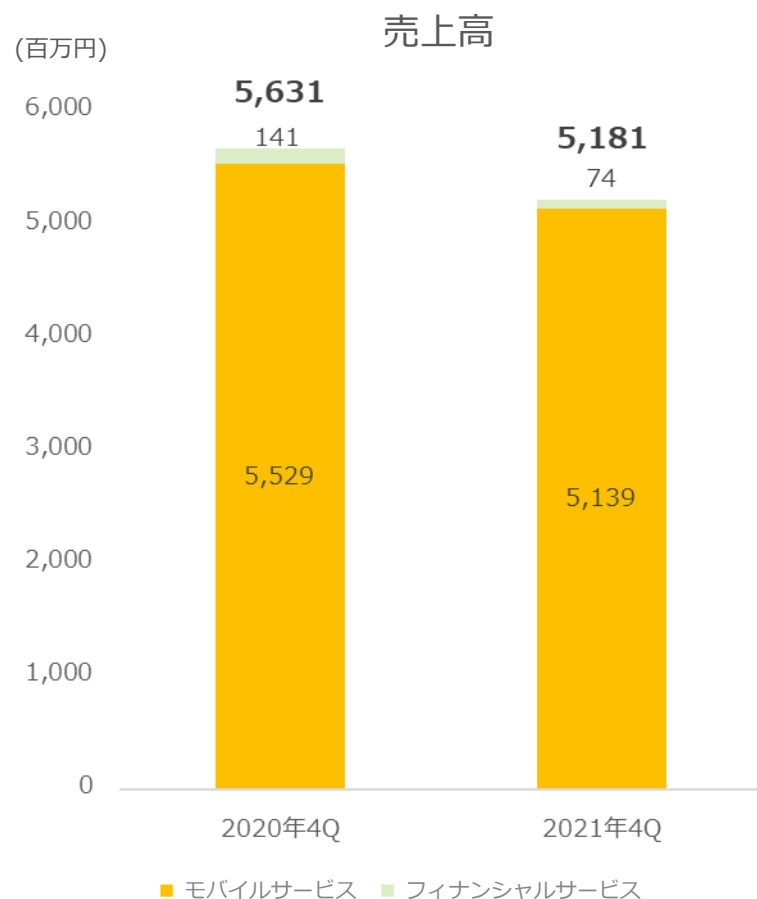
※1 四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

セグメント別売上高（第4四半期）

(単位：百万円)	第4四半期 (2021年10-12月)	前年同期 (2020年10-12月)	前年同期比
売上高	5,181 (100.0%)	5,631 (100.0%)	-8.0%
モバイルサービス事業	5,139 (99.2%)	5,529 (98.2%)	-7.1%
ポイントメディア	2,159 (41.7%)	1,592 (28.3%)	+35.6%
アフィリエイト	1,496 (28.9%)	1,934 (34.3%)	-22.6%
コンテンツメディア	809 (15.6%)	1,110 (19.7%)	-27.1%
ゆめみ	878 (17.0%)	893 (15.9%)	-1.6%
セグメント内の振替高	-204 (-)	- (-)	-
フィナンシャルサービス事業	74 (1.4%)	141 (2.5%)	-47.6%
セグメント間の内部売上高又は振替高	-32 (-)	-40 (-)	-

モバイル売上高はアフィリエイト・コンテンツの苦戦で前年同期比7.1%減収 ゆめみ・D2Cへの先行投資によりモバイル営業利益は前年同期比4.3%減益



※ セグメント間の内部売上高又は振替高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

貸借対照表の概要

(単位：百万円)		2021年12月期 期末	2020年12月期 期末	前年増減額	主な要因
流動資産	13,163 (65.1%)	11,517 (71.0%)	+1,645	現金及び預金 +754 営業投資有価証券 +495	
固定資産	7,071 (34.9%)	4,709 (29.0%)	+2,361	ビットバンク株式等 +2,731 投資有価証券 +272 ソフトウェア -311	
資産合計	20,234 (100.0%)	16,227 (100.0%)	+4,007		
流動負債	8,924 (44.1%)	7,471 (46.0%)	+1,452	ポイント引当金 +589 短期借入金 +550 未払金 -243	
固定負債	1,490 (7.4%)	1,663 (10.3%)	-173	社債 -190	
負債合計	10,414 (51.5%)	9,135 (56.3%)	+1,279		
純資産合計	9,819 (48.5%)	7,091 (43.7%)	+2,728	当期純利益 +2,775 配当金 -197	
負債・純資産合計	20,234 (100.0%)	16,227 (100.0%)	+4,007		

キャッシュフロー計算書の概要

(単位：百万円)	2021年12月期	2020年12月期	2021年12月期の内訳
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,162	2,258	税金等調整前当期純利益 4,006 減損損失 352 減価償却費・のれん償却額 296 ポイント引当金の増 589 持分法による投資益 -963 持分変動益 -880 支払い法人税 -931
投資活動によるキャッシュ・フロー	-787	-482	投資有価証券の取得 -487 関係会社株式(ビットバンク等)取得 -415 studio15の子会社化による支出 -176
財務活動によるキャッシュ・フロー	408	363	有利子負債の増加 476 株主還元(配当) -197
現金及び現金同等物の期末残高	6,883	6,097	

<株主還元>

	2020年度	2021年度	2022年度 (予想)
年間配当金	18.00円	40.00円	20.00円
配当金総額	197百万円	449百万円	224百万円
配当性向	26.7%	15.9%	20.4%
純資産配当率	3.1%	5.7%	—
自己株式取得総額	299百万円	—	—
株主還元額	497百万円	449百万円	—

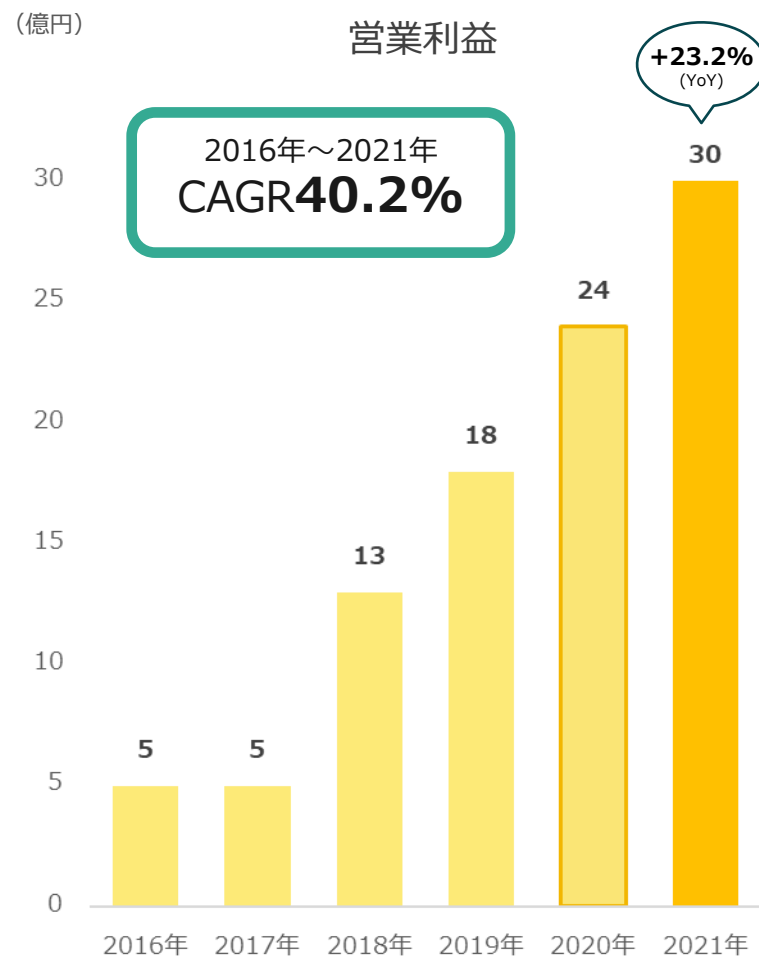
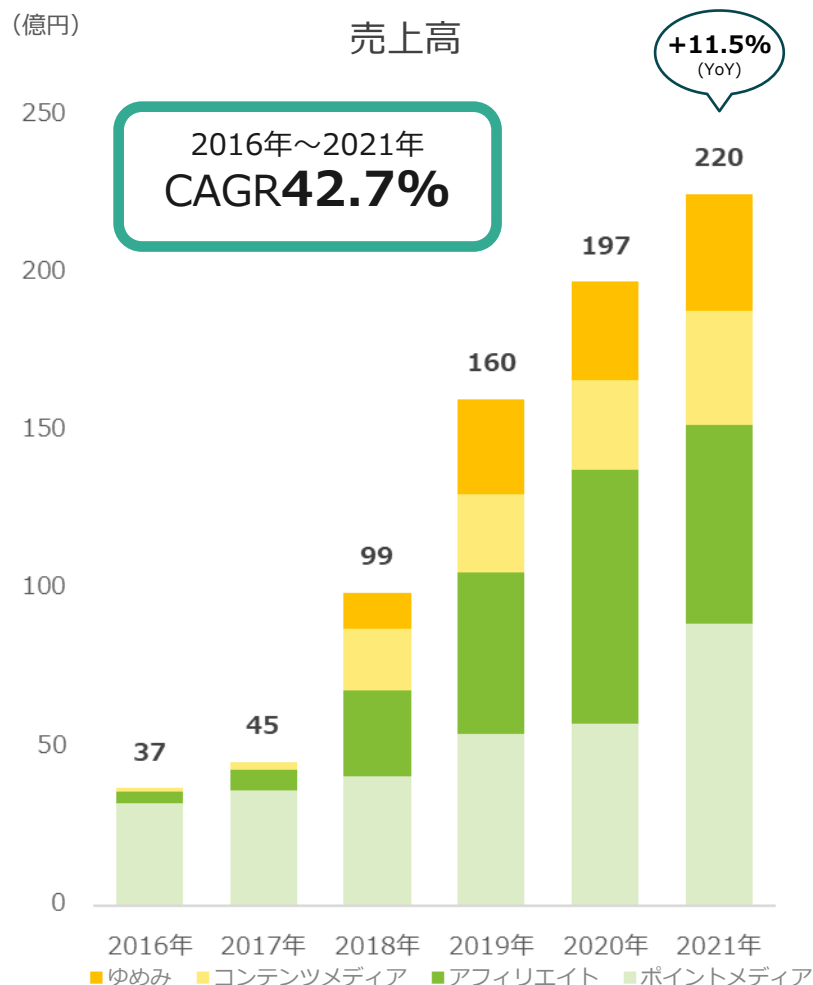
<経営指標>

	2020年12月期	2021年12月期
ROA (総資産経常利益率)	12.5%	19.2%
ROE (自己資本純利益率)	11.8%	35.6%

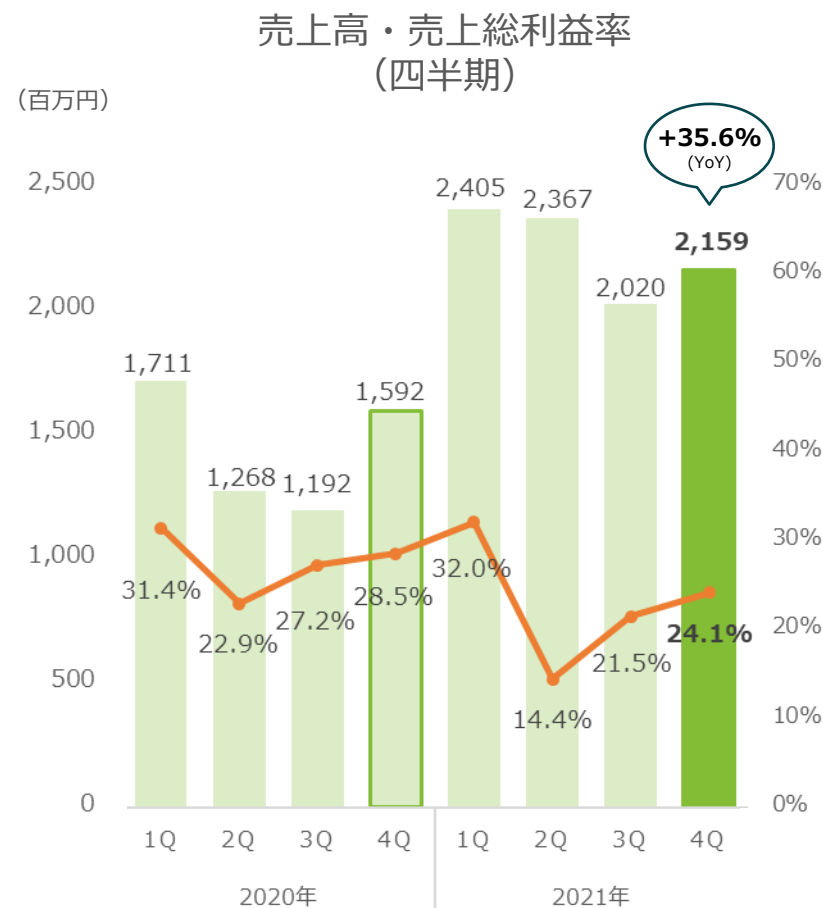
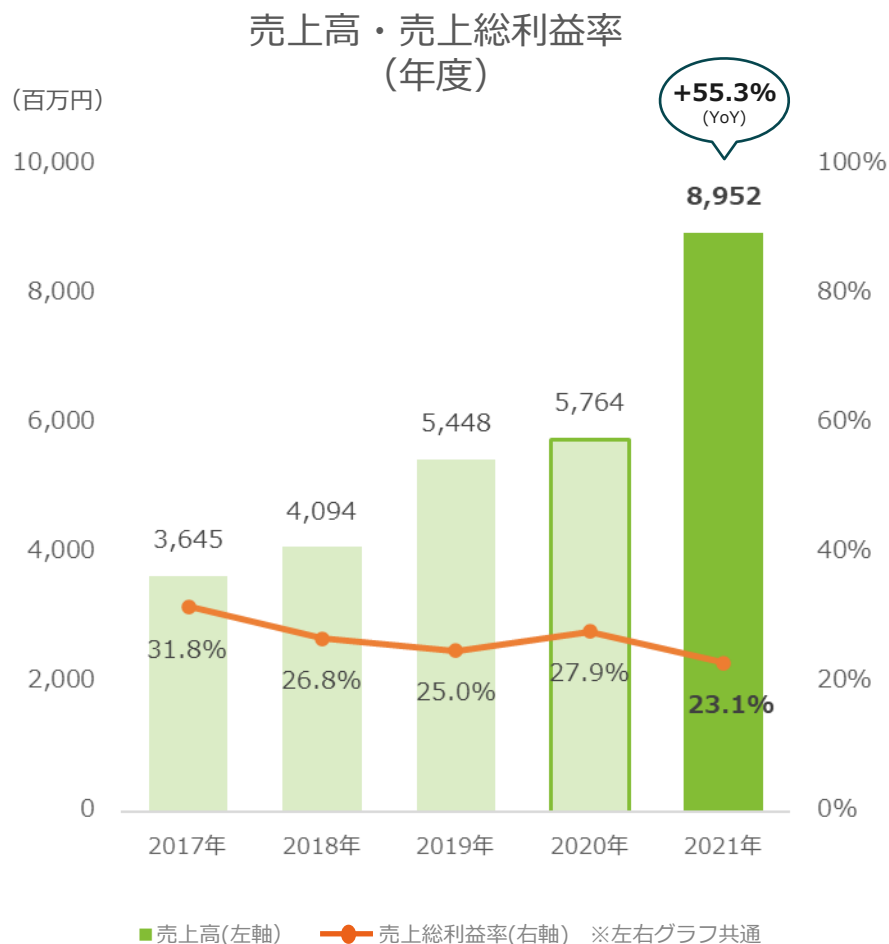


3. 各事業の業績について

売上高はモッピー・ゆめみの成長とD2Cの立ち上がりで前年比11.5%増収
営業利益はD2Cへの投資をモッピー・ゆめみの利益が上回り前年比23.2%増益

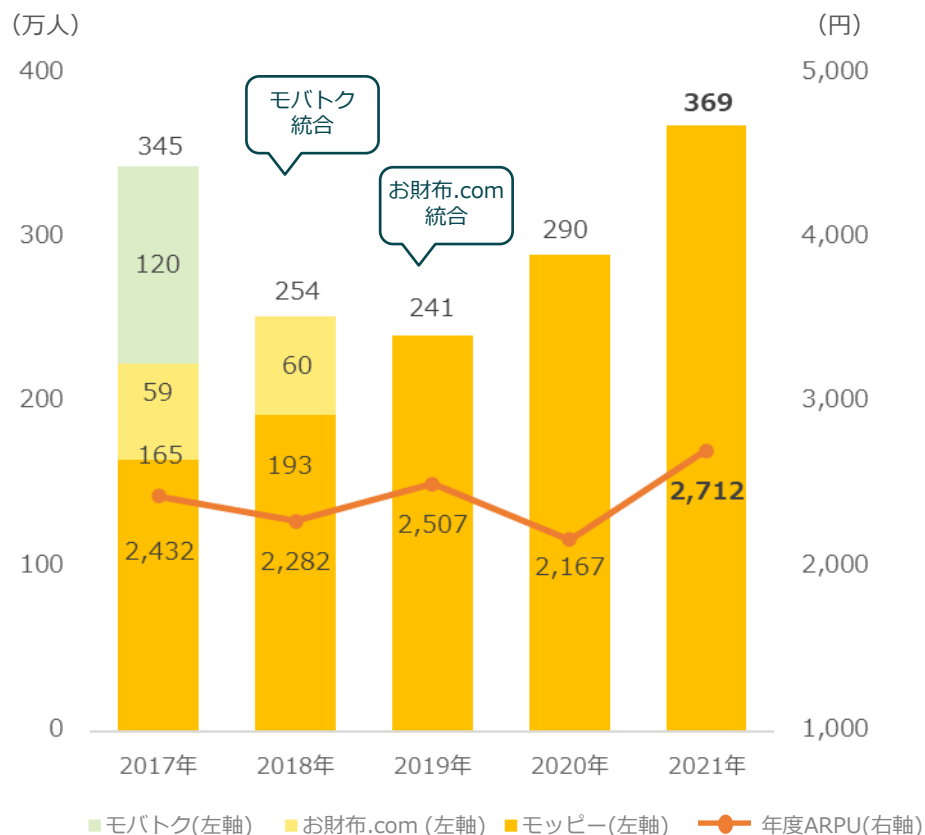


2020年のコロナ禍の反動需要を取り込み売上高は前年比55.3%増収 第4四半期は順調な会員増と金融系案件の増加により前年同期比35.6%増収

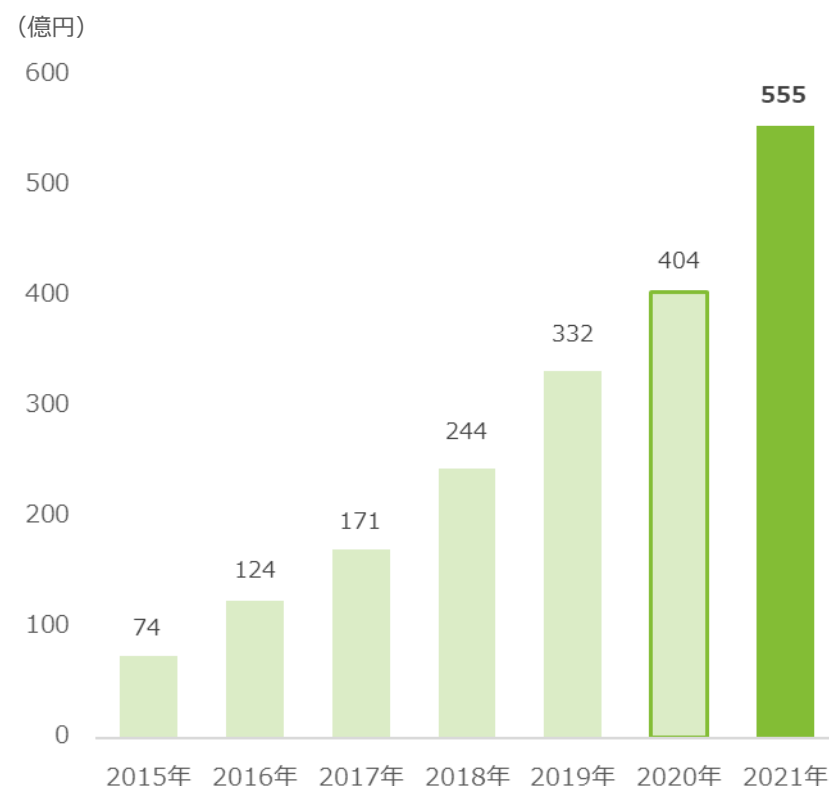


モッピーアプリの浸透により会員増とアクティブ度の向上でARPUも増加 コロナが流行する環境下で新たな消費行動が定着しEC関連物流額も大幅伸長

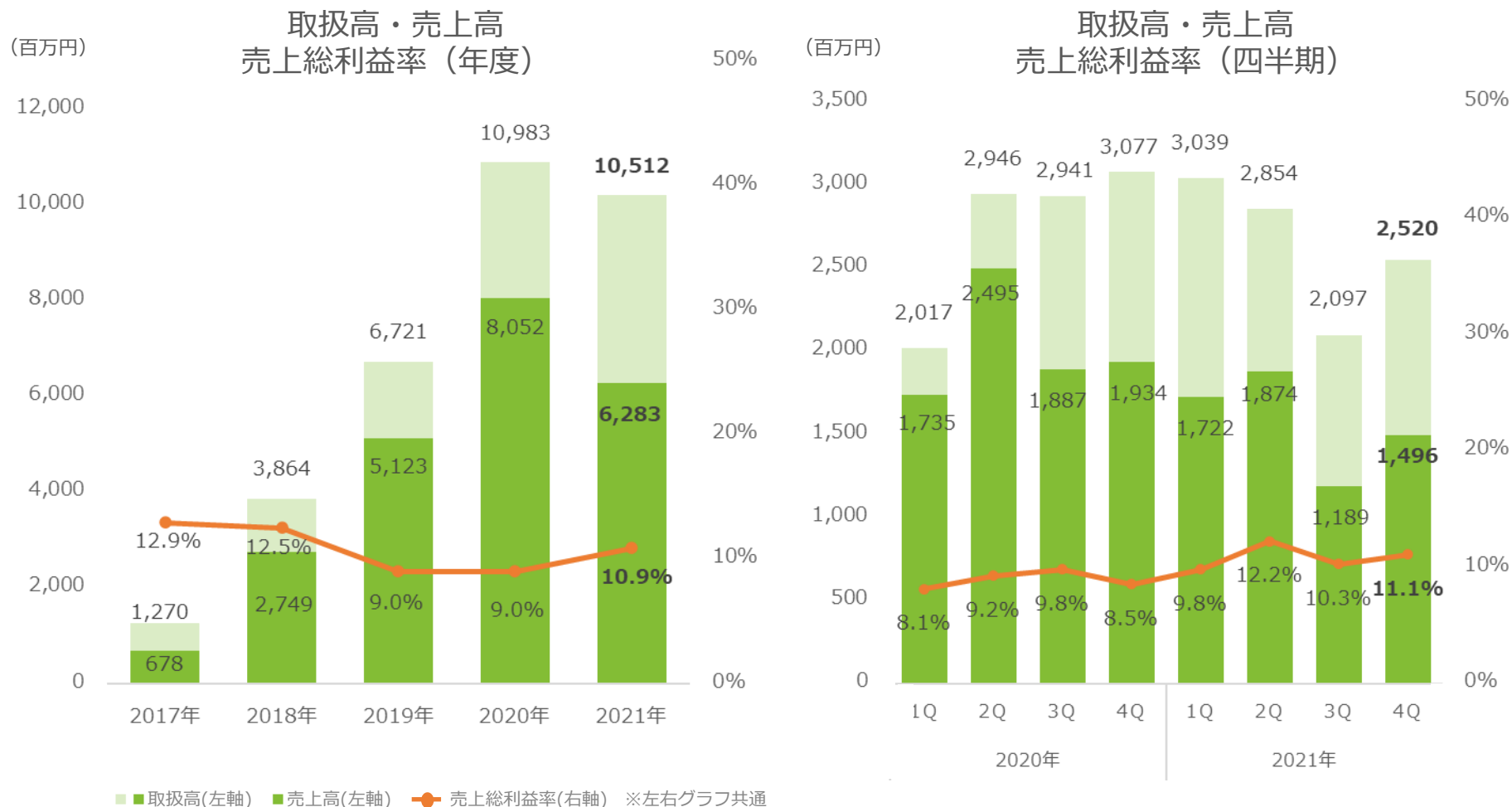
アクティブ会員数・ARPU



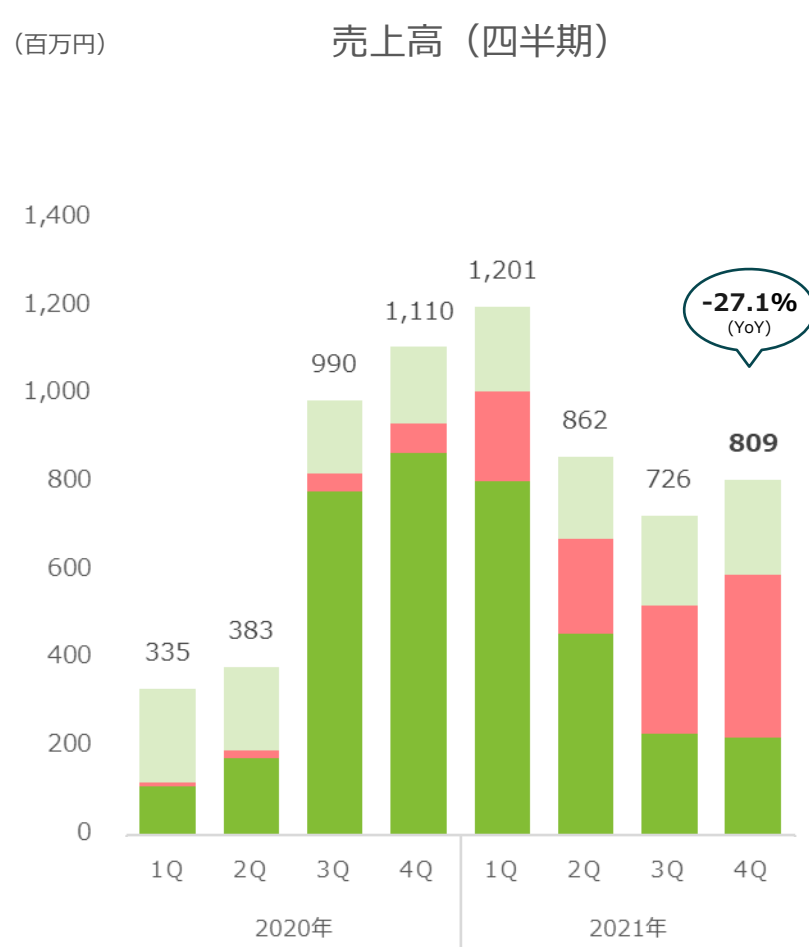
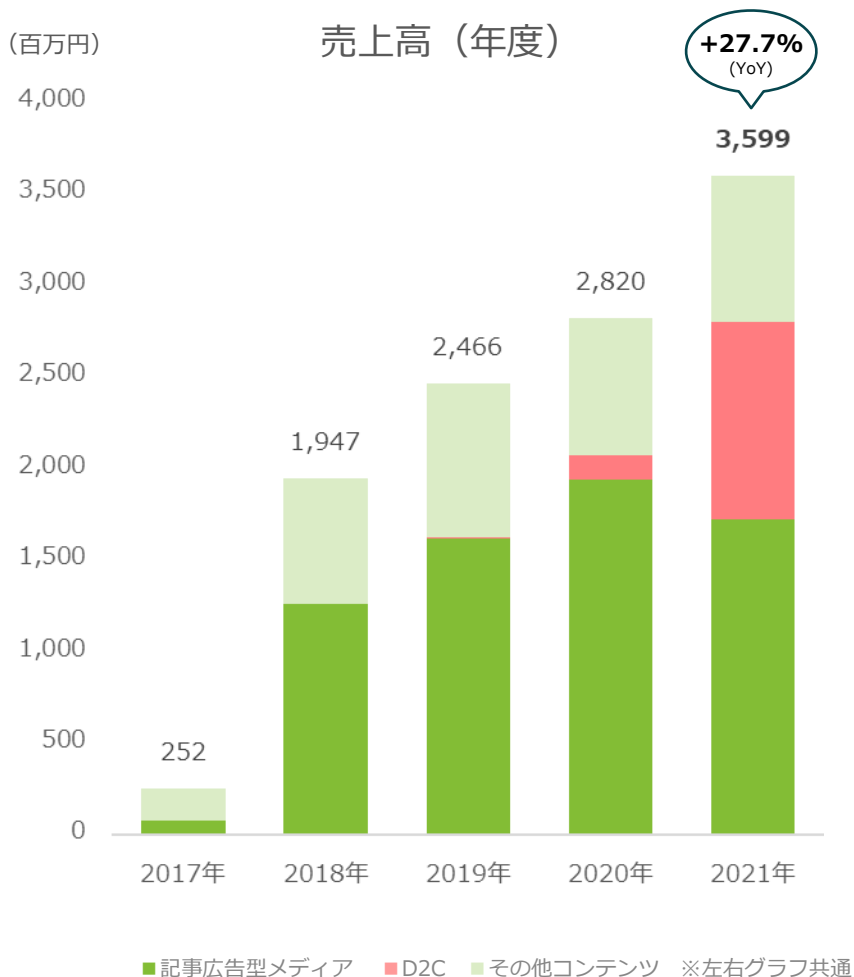
EC関連物流額



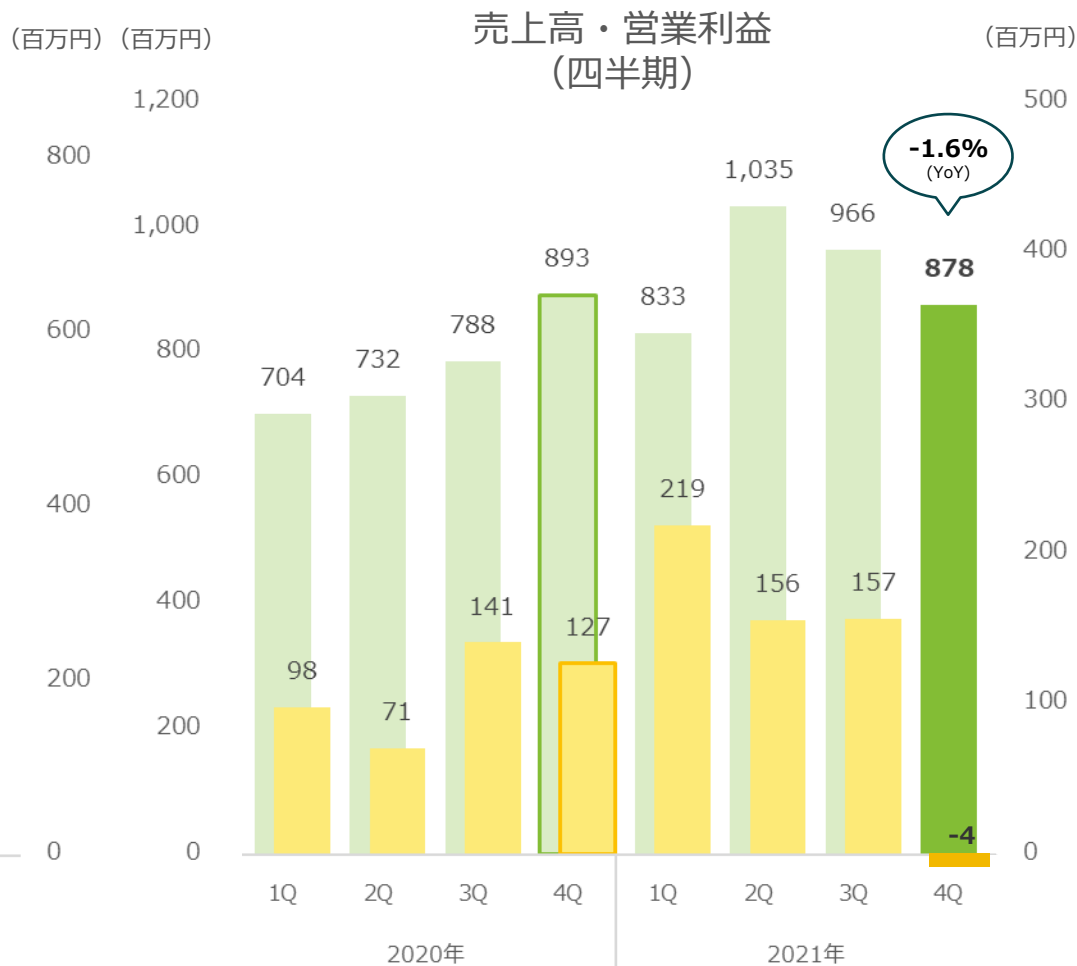
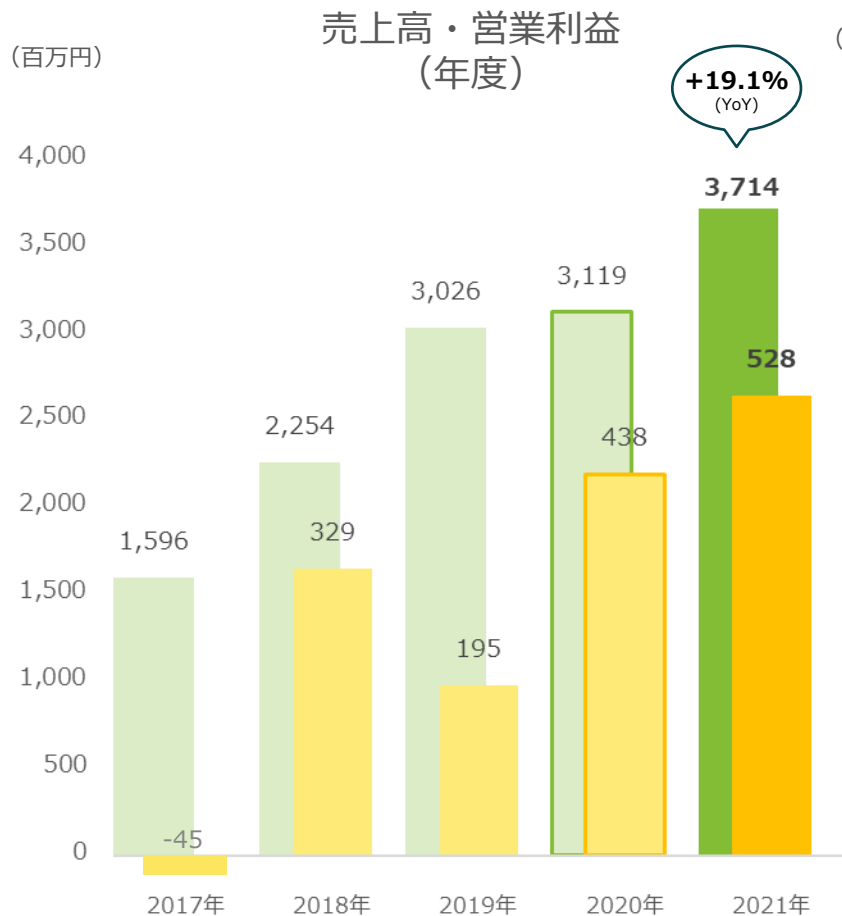
個人情報保護と消費者保護の影響を受け前年比22.0%減収（新基準1.9%減収） 第4四半期は前四半期比25.8%増収で底打ち確認（新基準44.3%増収）



D2Cは年間833百万円の広告投資を行い売上高が前年比約7倍と急拡大 記事広告型メディアは個人情報と消費者保護の規制強化の影響が続くも底打ち



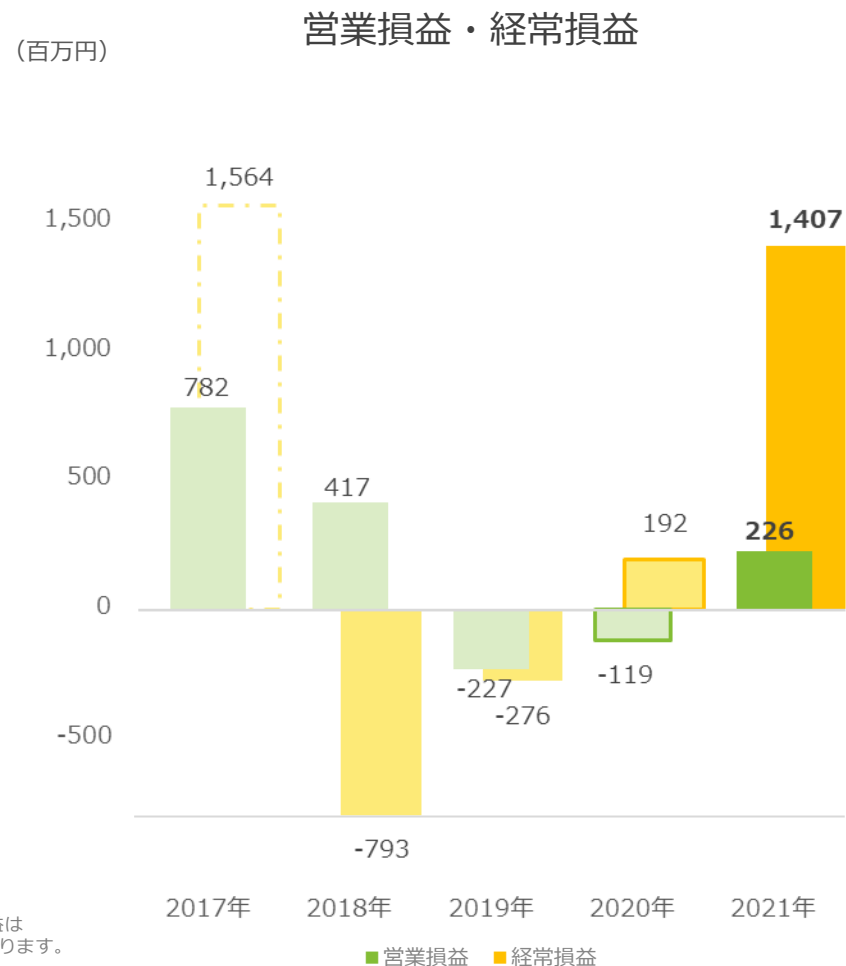
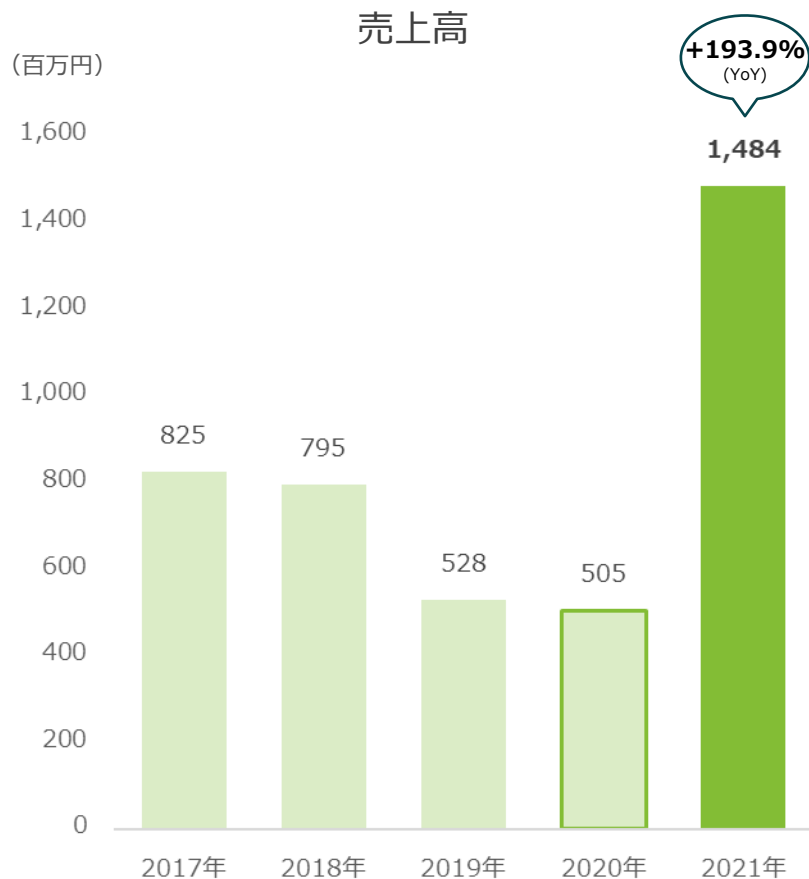
企業のDX化の追い風を受け年度では売上高・営業利益ともに過去最高を達成 マーケティング強化としてのSELECK買収や採用研修投資で4Q営業利益は赤字に



■売上高(左軸) ■営業利益(右軸) ※左右グラフ共通

※公表数値については、連結前の単体数値で表記しています。

投資育成事業（CVC）での株式売却とコインチェックのアーンアウトが貢献 マーキュリー（▲537百万円）とラボルの先行投資による営業赤字をカバー



※ 2017年決算の経常利益は連結決算を行った想定数値として、また2018年の営業損益・経常損益は「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」の適用後の数値を記載しております。

D2C・ブロックチェーン関連を中心にセレスとの協業を前提に投資 第4四半期は音楽関連・ブロックチェーン関連に2件1.1億円の投資を実行

(2021年12月末)



モバイルサービスと連携

メディア・D2C関連

DINÉTTE User Like Post Coffee flicfit
toridori PFTOKOTO ZEROUUM ISEC

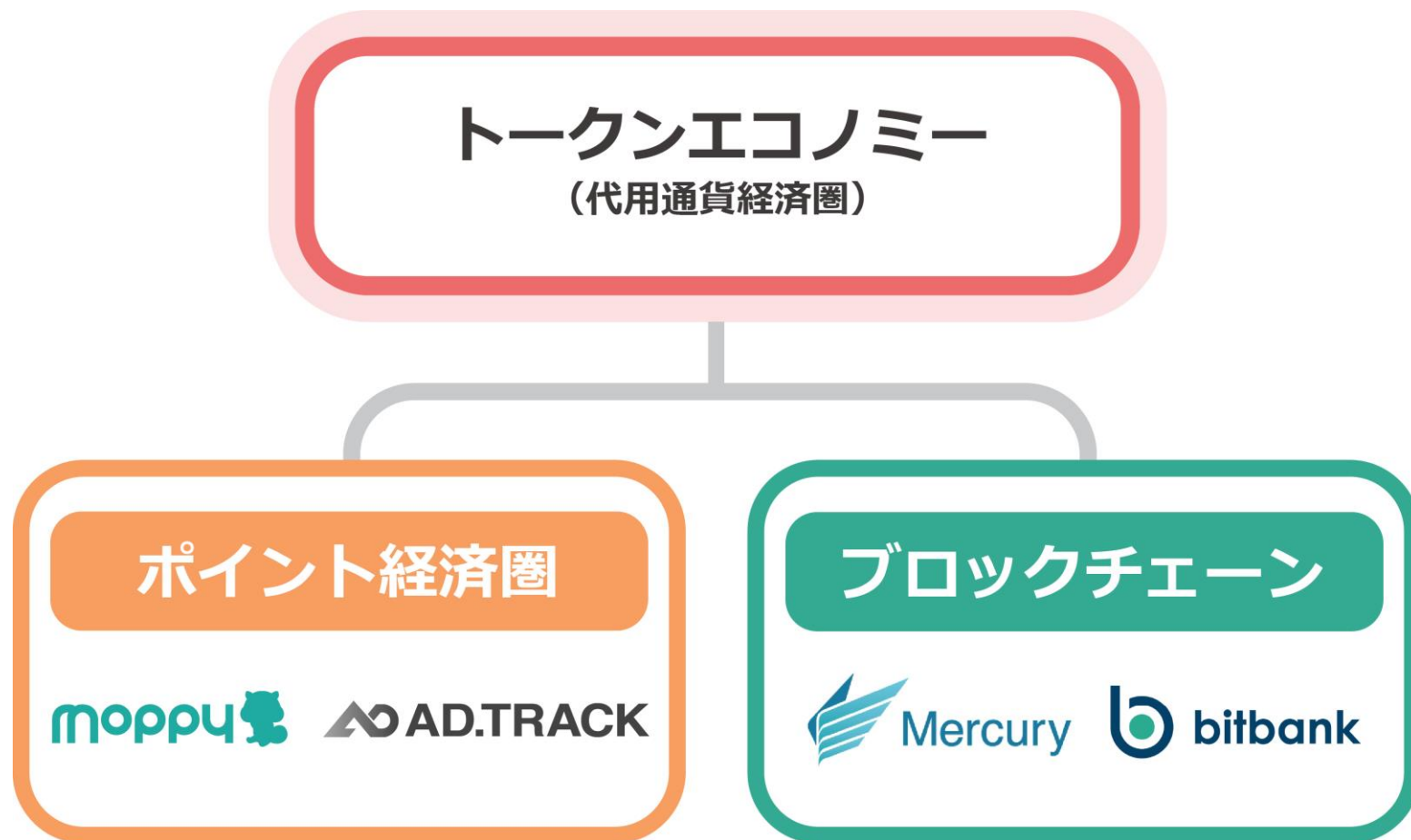
フィナンシャルサービスと連携

フィンテック・ブロックチェーン関連

Infcurion HashPort sivira BRD
CAMPFIRE GINKAN イークラウド IT Realize

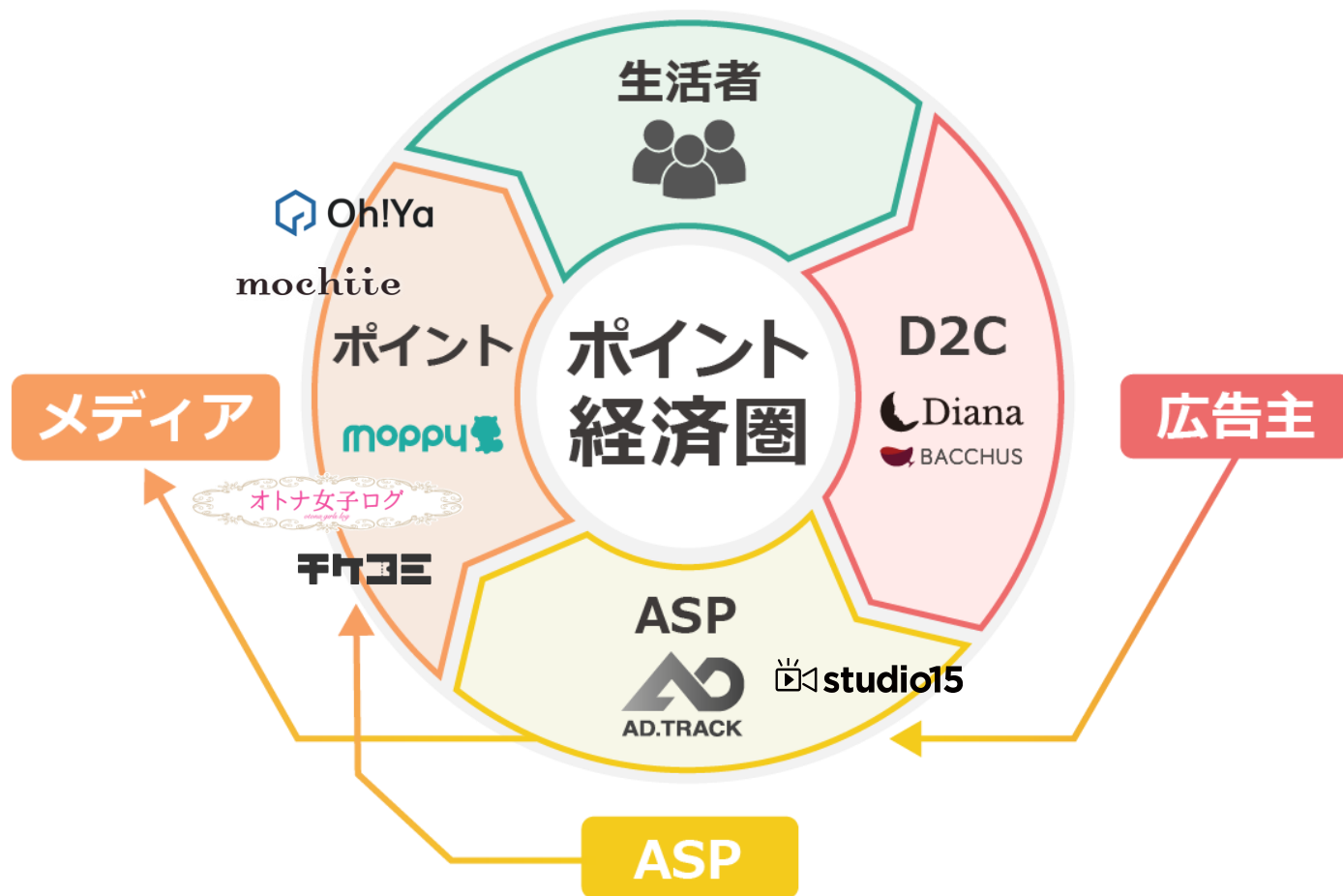
4. 中期経営計画2026

社会経済活動の活性化をはかるため「**トークンエコノミー**」としての
ポイント経済圏とブロックチェーンでプラットフォーム構築を目指す

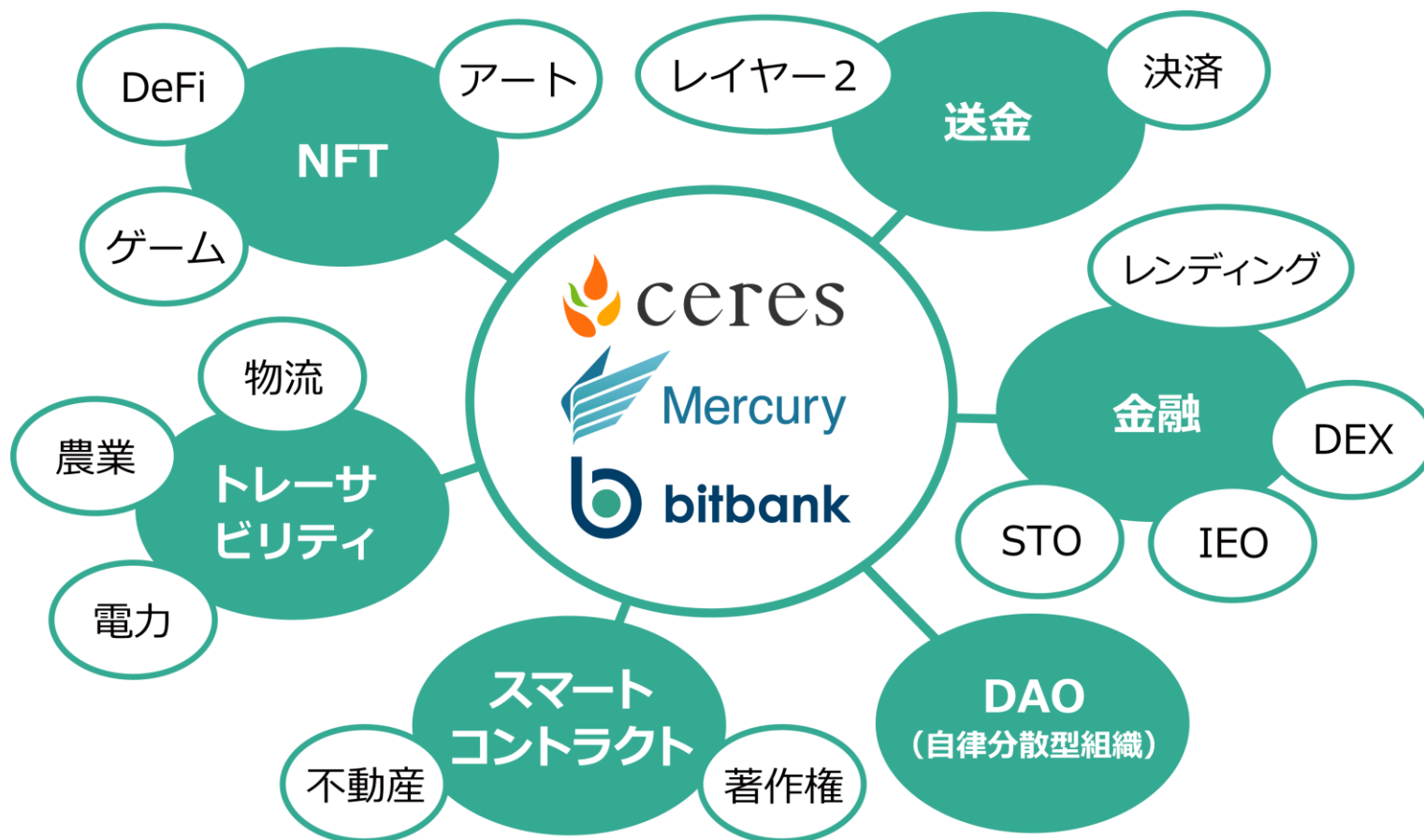


※ トークン (Token) とは、しるしや代用通貨、商品引換券などと訳される。

モッピーを主軸としASP・D2Cによるポイント経済圏を確立する
広告主・ASP・メディアを巻き込んだオープンプラットフォームに



Web3.0時代の到来によりブロックチェーン技術の浸透が進むと想定
グループカを活かしブロックチェーン領域でNo.1企業を目指す



2026年12月期に売上高400億円・経常利益100億円をコミット
中期経営計画2026達成のために5年間で300億円の積極投資を計画

売上高

400 億円

経常利益

100 億円

投資金額

300 億円

ポイント経済圏とブロックチェーンでトークンエコノミーを創造 2026年に2021年比売上高2.2倍・経常利益2.9倍の高成長を実現へ

前中期経営計画2021

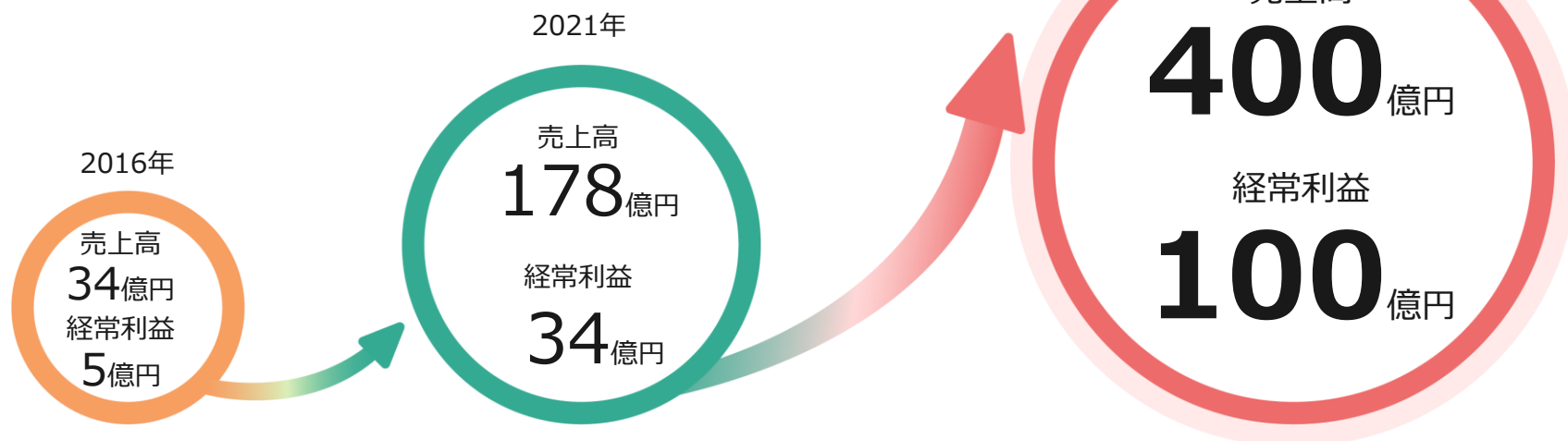
中期経営計画2026

ポイントサイト

ポイントメディア+a

トークンエコノミー

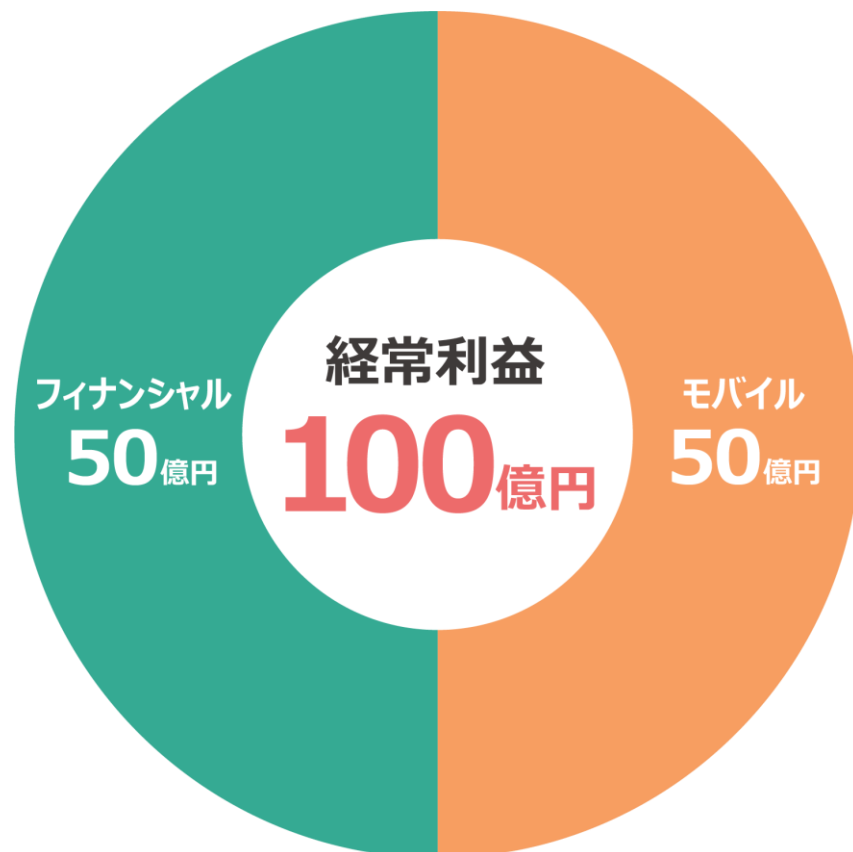
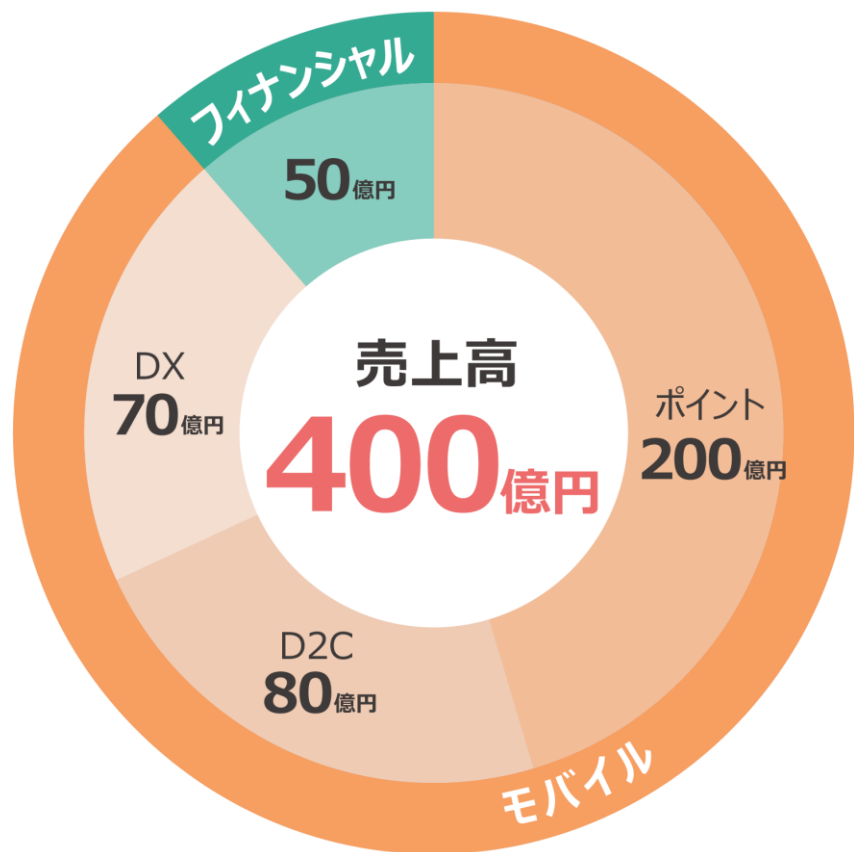
2026年
(計画)



※ 新収益認識基準に則った数値を掲載しています

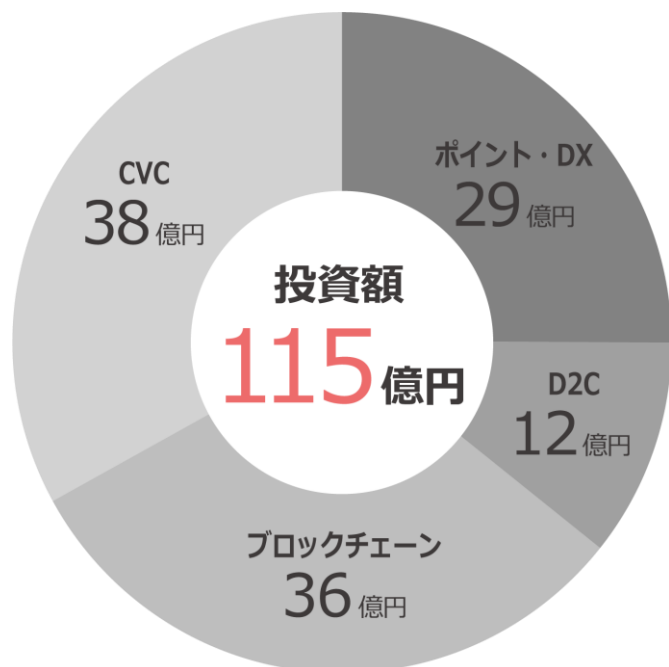


ポイントに加えD2C・DXの強化でモバイルサービス売上高350億円に
ブロックチェーンの収益化でフィナンシャルサービス売上高50億円に

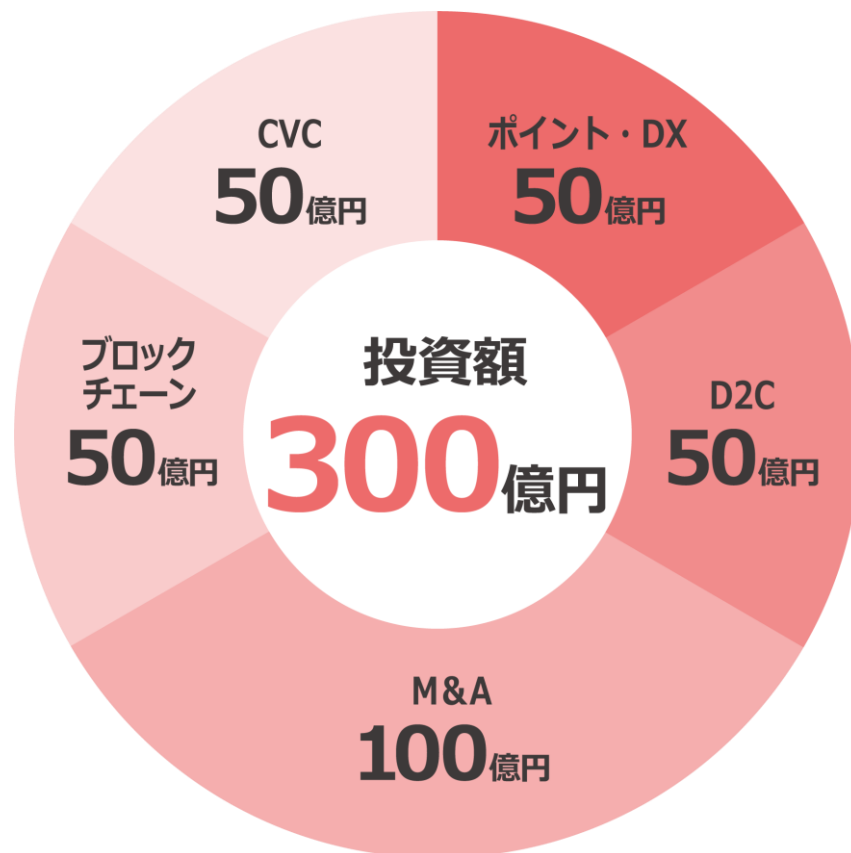


中計2026では前中計2021比約3倍の300億円を戦略的に投資
ポイント・ブロックチェーンに加えM&Aに100億円の投資計画

前中期経営計画2021の投資額



中期経営計画2026の投資計画



ポイント・DX、ブロックチェーンに
40億円のM&A含む

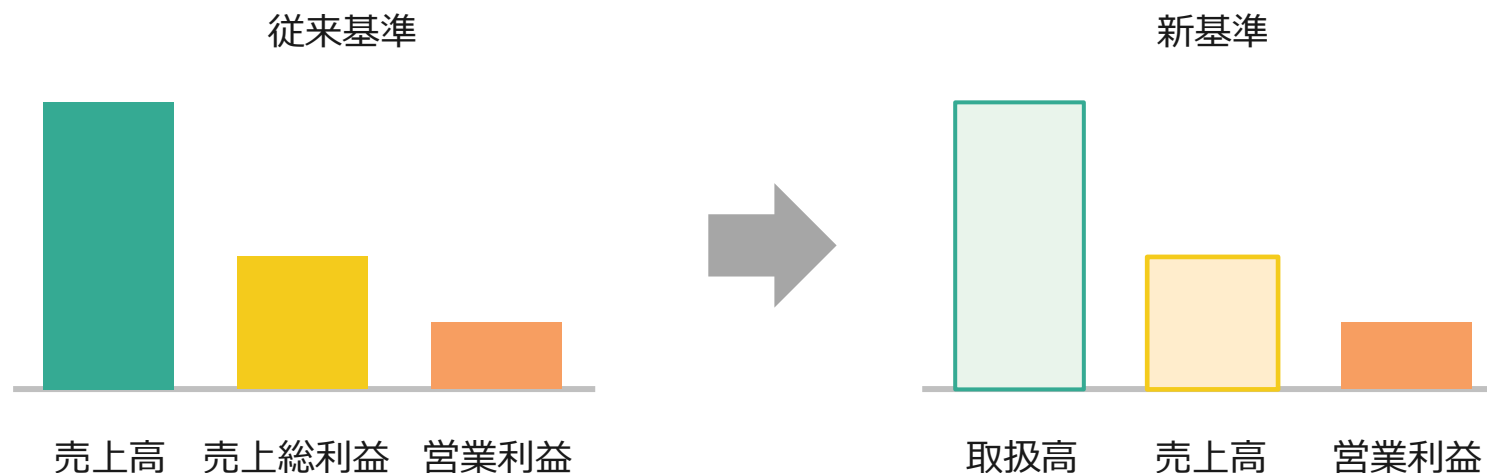


5. 2022年12月期の事業戦略

2022年12月期より「収益認識に関する会計基準」を適用 主にモバイルサービス事業のアフィリエイトプログラムが適用対象に

【アフィリエイトプログラムの適用イメージ】

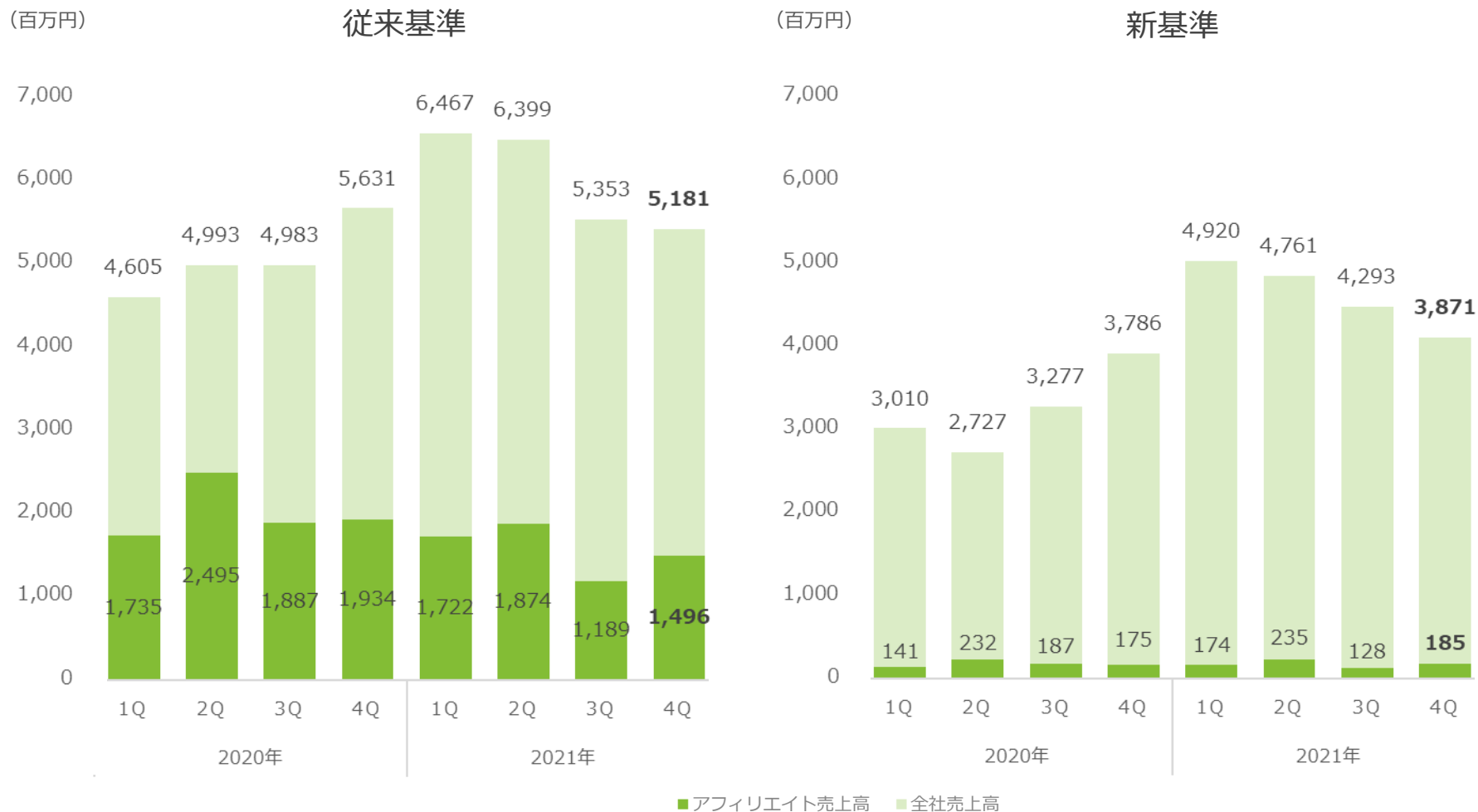
新中期経営計画では、新収益認識基準に則った数値を掲載



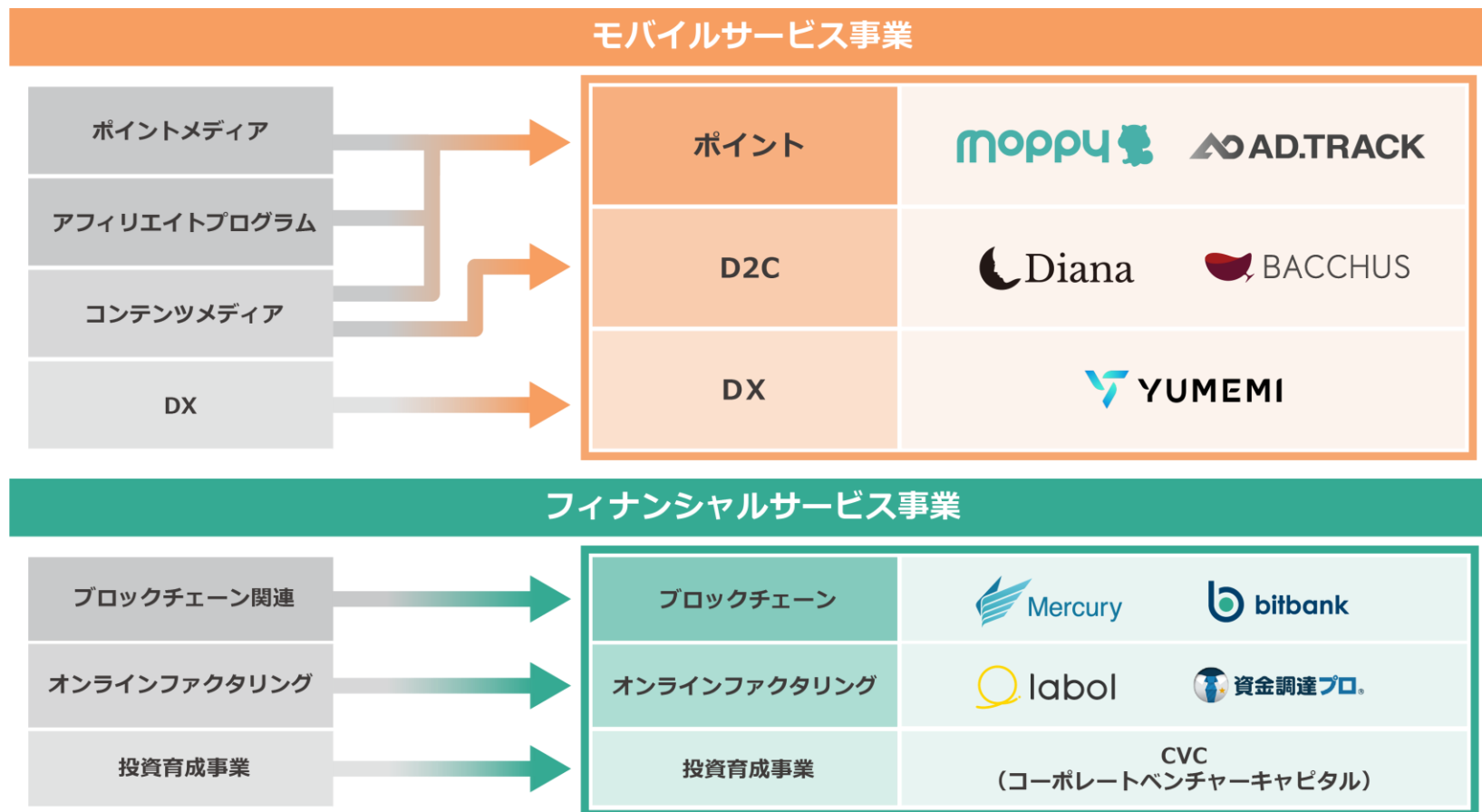
新収益認識基準では、クライアントからの広告費など(売上高)から、メディアへ支払う掲載費など(原価)を差し引いた金額(従来の基準の売上総利益)が、新収益認識基準のおおよその「売上高の額」に相当

※ 企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」

主にモバイルサービス事業のアフィリエイトプログラムが適用対象に メディア掲載費を差し引いた従来基準の売上総利益が新基準では売上高に



新収益基準導入に伴いモバイルサービス事業セグメント内区分を 2022年12月期からポイント・D2C・DXへ再編



(単位：百万円)	2021年12月期	2021年12月期 (調整後*)	2022年12月期 予想	前年同期比	前年増減額
売上高	17,846 (100.0%)	16,678 (100.0%)	18,500 (100.0%)	+3.7%	+653
営業利益	2,305 (12.9%)	1,420 (8.5%)	1,400 (7.6%)	-39.3%	-905
経常利益	3,499 (19.6%)	2,083 (12.5%)	2,000 (10.8%)	-42.9%	-1,499
当期純利益※1	2,775 (15.6%)	1,116 (6.7%)	1,100 (5.9%)	-60.4%	-1,675
EBITDA※2	4,693 (26.3%)	2,396 (14.4%)	2,400 (13.0%)	-48.9%	-2,293

売上高は前年比3.7%増を計画

- ・ポイントのモッピー、D2C、DXが売上成長のドライバー
- ・会社予想には投資有価証券の売却を見込まず

各段階利益は前年比減益を計画

- ・前年発生した投資有価証券の売却益やアーンアウト受取の剥落と、マーキュリーを中心とした先行投資により各段階利益は減益を計画

*調整後…2021年の業績について以下の一過性項目を調整

調整項目：投資有価証券の売却益631百万円、コインチェックのアーンアウト受取295百万円、暗号資産評価益・売却益442百万円、持分変動利益880百万円、減損損失358百万円

※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

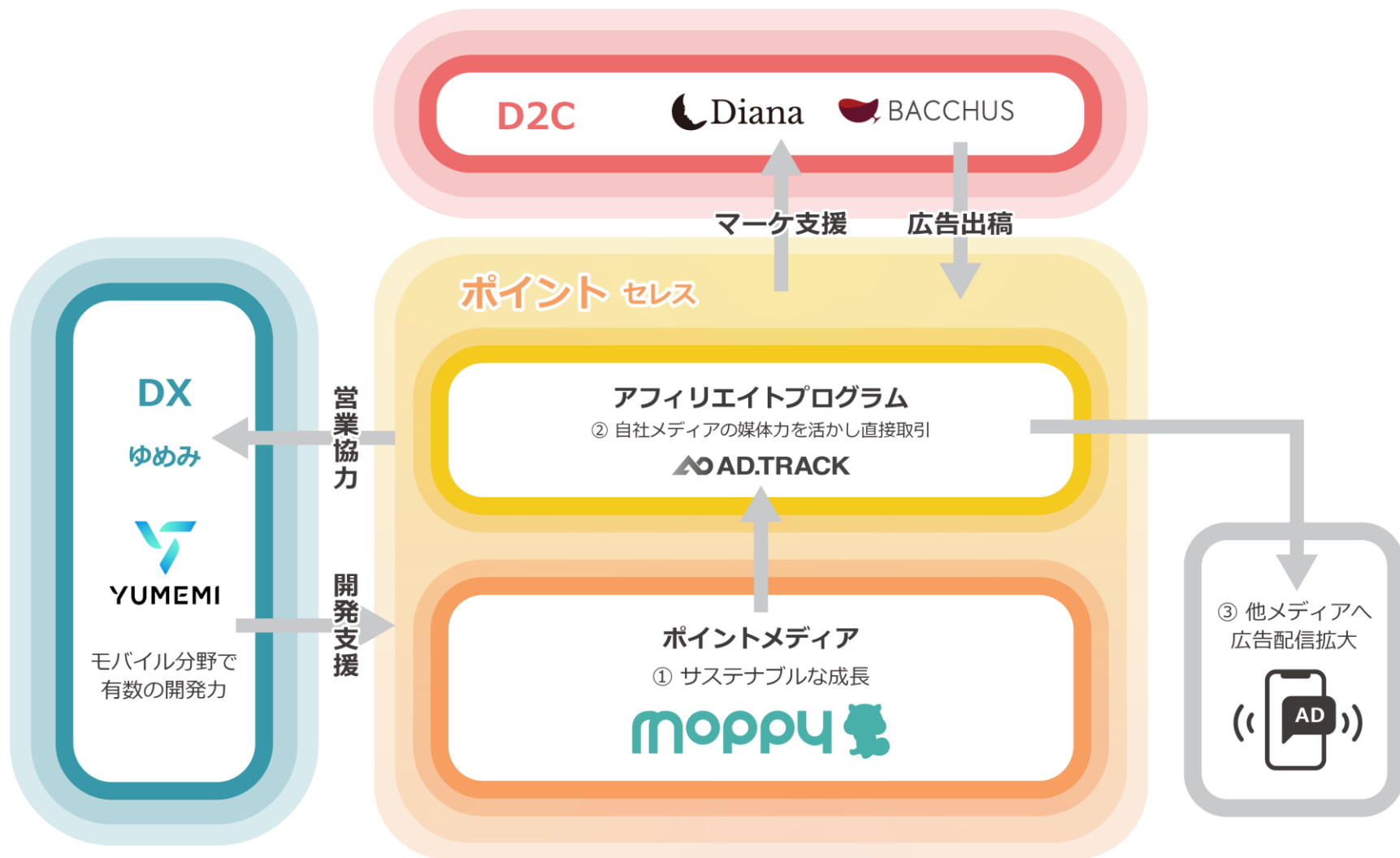
※3 新収益認識基準に則った数値を記載しています。



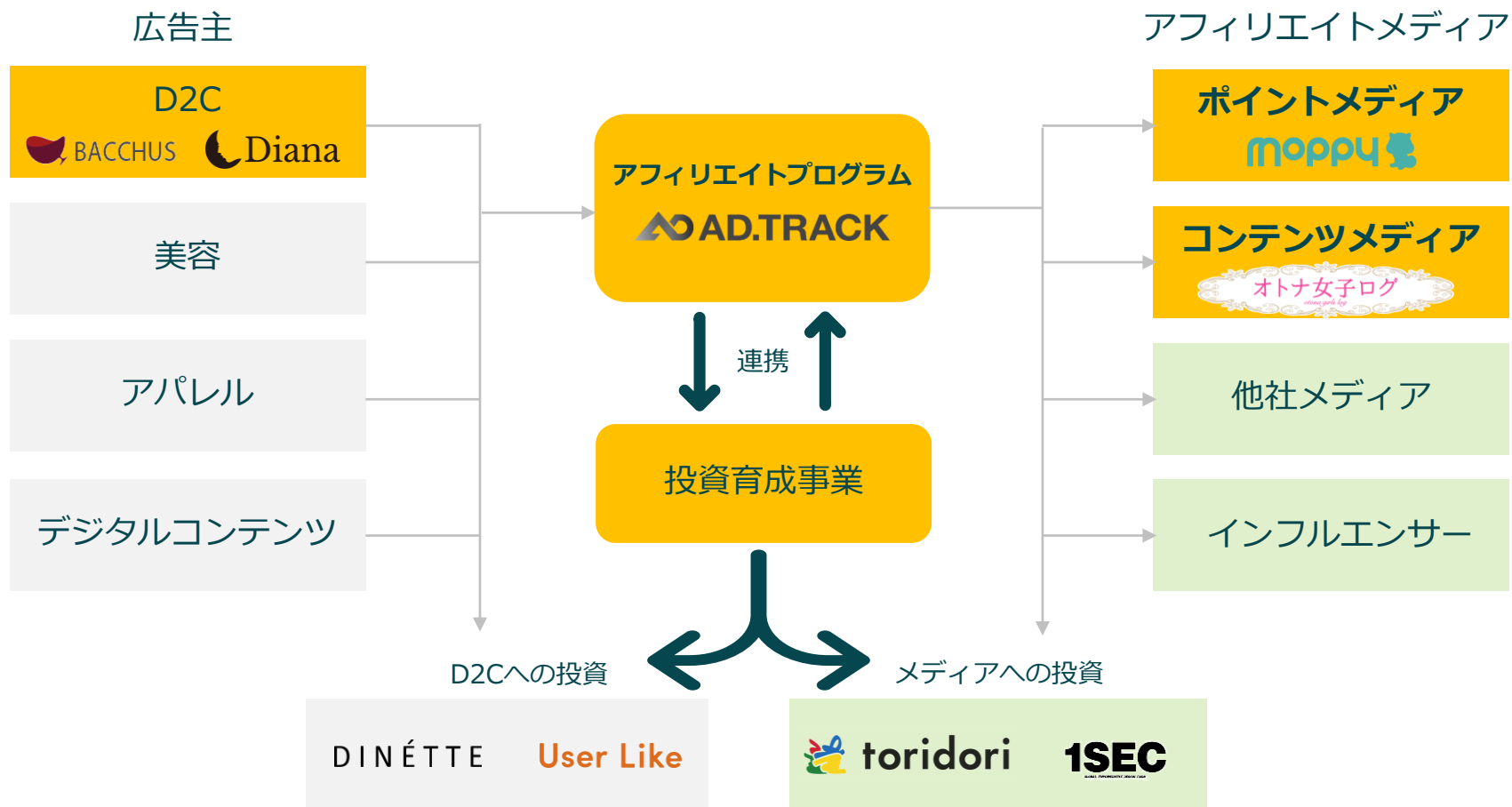
(単位：百万円)		売上高	営業利益
全体		18,500	1,400
モバイルサービス事業		18,040	2,726
	ポイント	11,190	1,989
	D2C	2,650	153
	DX	4,200	583
フィナンシャルサービス事業		500	-507
調整額（その他）		-40	-818

※調整額（その他）は、セグメント間内部売上高又は振替高とセグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用を含んでいます。

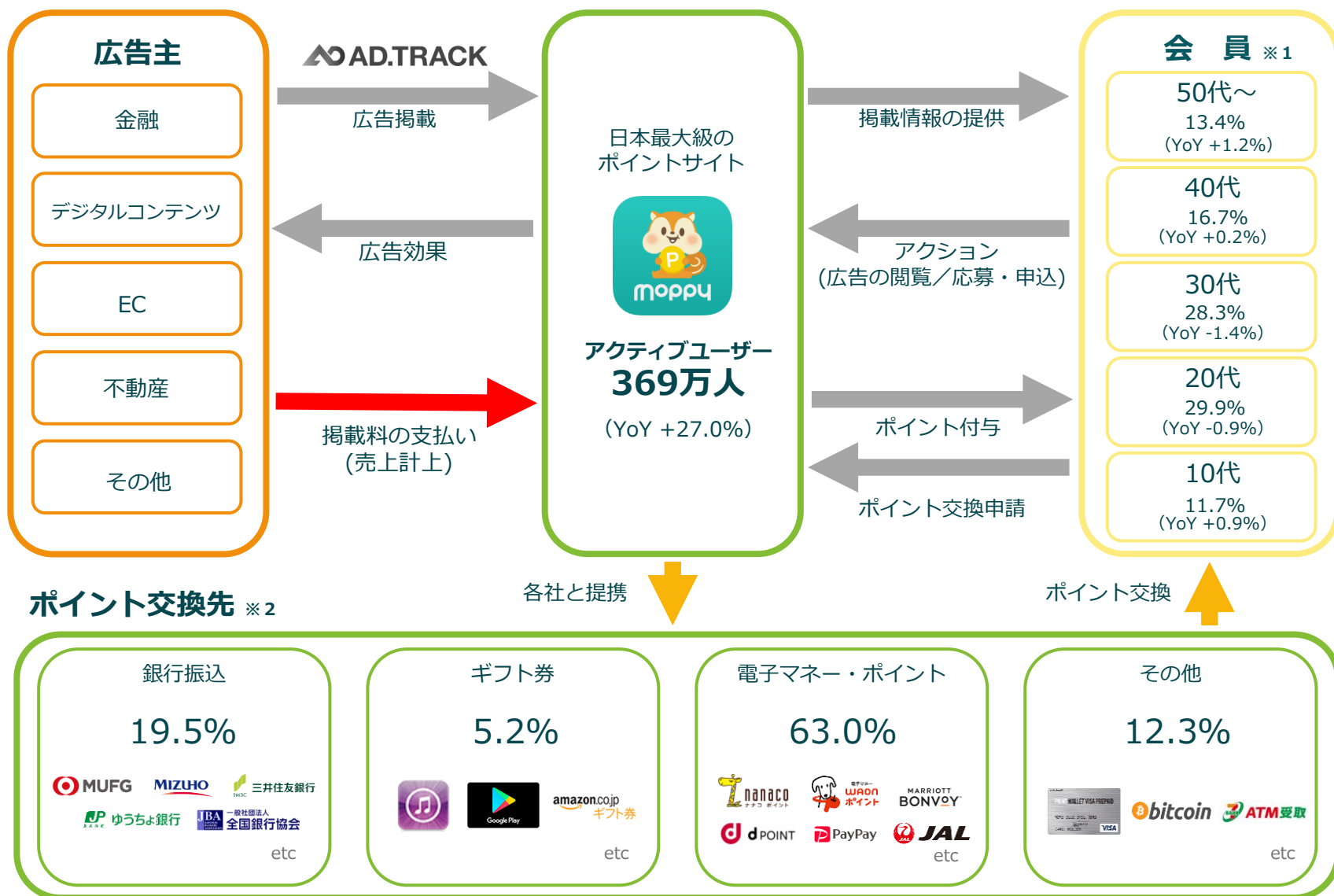
モバイルサービスの事業系統図



ポイントメディアの媒体力を活かしアフィリエイトAD.TRACKを拡大 ポイントとしてコンテンツ・アフィリエイトと一層の事業シナジーを創造



ポイントメディアについて



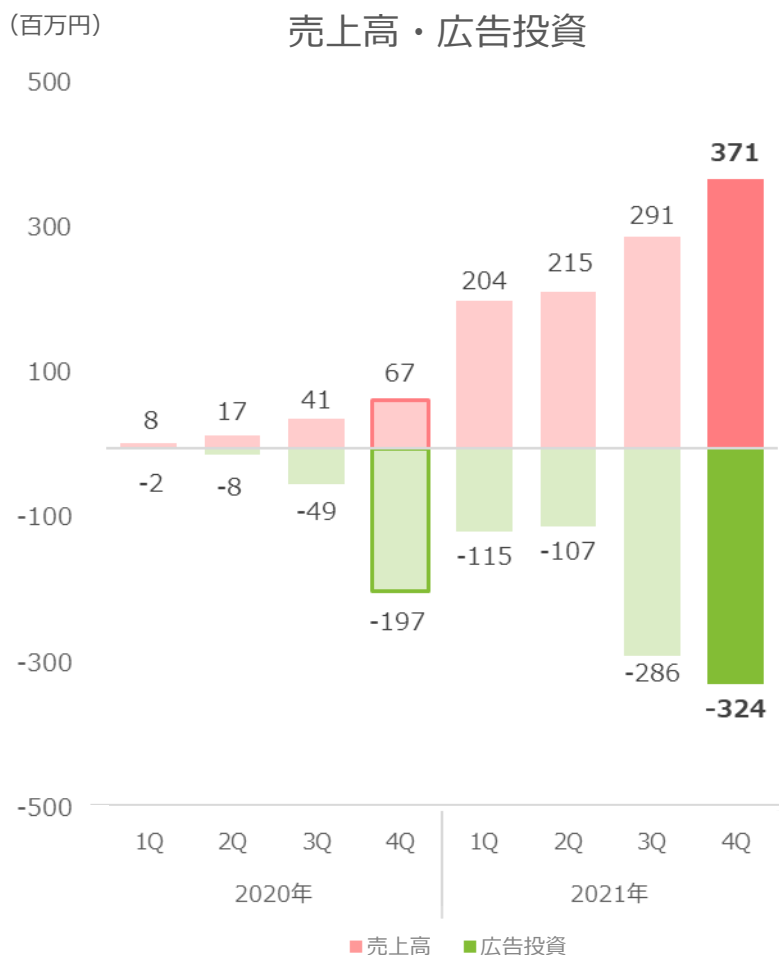
※1 2021年12月末日時点の割合

※2 2021年10～12月に発生したポイント交換割合

モッピーはフィンテック機能搭載により決済アプリに進化を計画 ネット決済・リアル決済・リアルポイ活を可能としユーザビリティを向上



中期経営計画2026の目標達成に向け初年度はブランド戦略の展開に着手 積極的かつ効率的な広告投資を継続しつつ通期の黒字化を目指す



ブランド戦略

商品ラインナップの拡充と販促強化で「エトワールボーテ」ブランドを確立
今期は5商品の投入を予定

✓ ホワイトメモリークリーム

形状記憶ジェルで「贅沢保湿×艶雪肌」へ導く
日本初処方のオールインワンジェル



✓ ペルレノアールマスク

高濃度炭酸の濃密泡で美容成分を角質層の奥まで浸透させる
高濃度炭酸パック



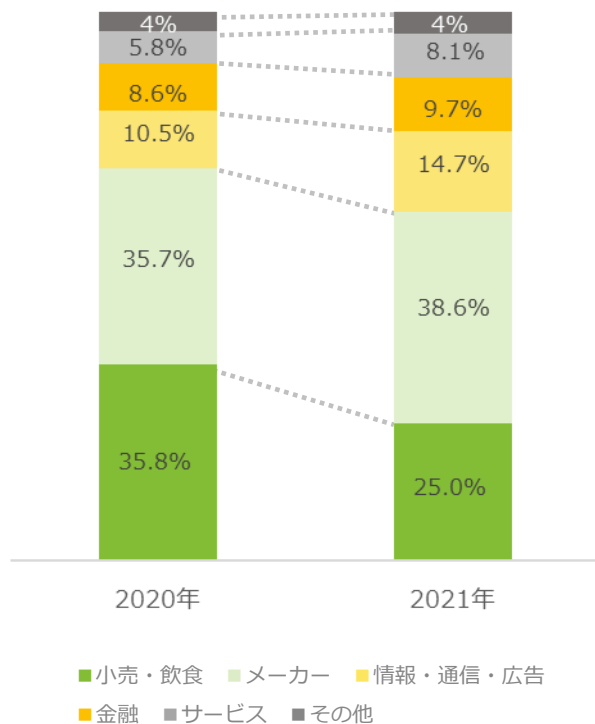
マーケティング強化

studio15との連携を強化しTikTokを中心としたインフルエンサーマーケティングに注力

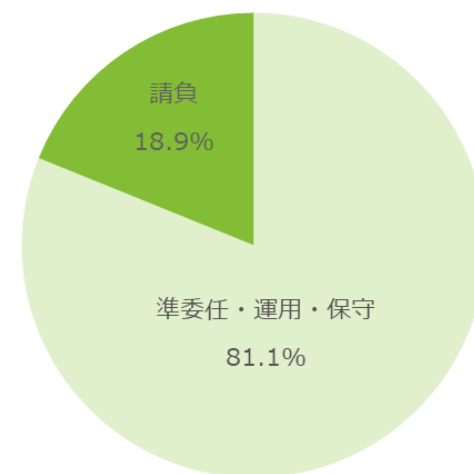


企業の業務変革や顧客接点改革などを中心に企業のDX化支援が加速 内製化支援で企業のDX化を推進させ準委任・運用・保守の割合増加を目指す

顧客業種別割合



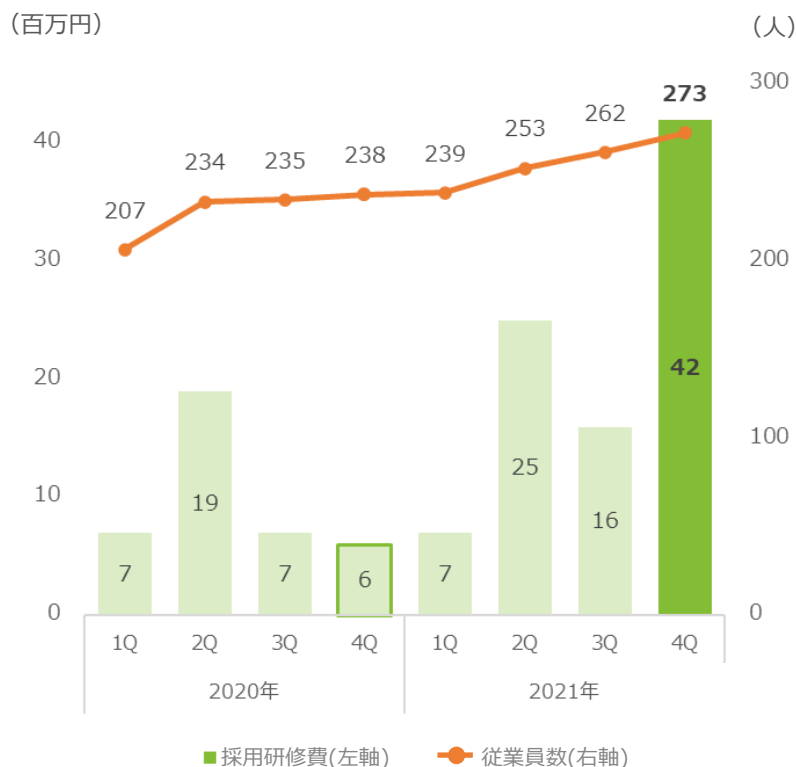
セグメント別売上高（2021年12月期）



- オムニチャネル領域の顧客から、メーカーやスタートアップへ売上割合を増加させ、長期的には金融クライアントの増加を目指す
- 大企業向けDX・内製化支援業務により顧客満足度の向上を図りリカーリング化を推進

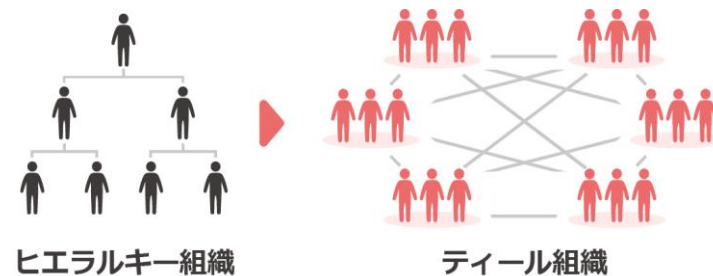
エンジニアの継続的な採用が重要課題のため魅力的な会社制度で採用を伸ばし ティール組織の採用によりフラットな組織形態を実現

採用研修費・従業員数



組織改革と権限移譲

自立分散的なティール組織を構築し
権限移譲でセルフマネジメントを実現



- ・働く場所も給料も社員一人ひとりが自分で決める
- ・一人ひとりが主体的に考え行動する
⇒エンジニアに魅力的な会社

前中期経営計画時に多角化した事業ポートフォリオの選択と集中を実行 一方で中期経営計画2026達成のために新規事業への積極投資も同時に実施

選択と集中による事業売却

モッピーバイト



コロナで大幅に環境の悪化した採用報酬型アルバイト求人サイト「モッピーバイト」を求人事業を運営するアドヴァンテージ社へ吸収分割で売却

Look App



セレス内で事業連携が弱かったスマホ向けゲームアプリ紹介サイト「Look App」をメディア運営会社メディアアノ社へ事業譲渡予定

新規事業への投資

studio15株式会社



急成長のインフルエンサーマーケティングと日本でも市場拡大が期待されるライブコマースを見据え、TikTokクリエイター事務所「studio15」を100%子会社化

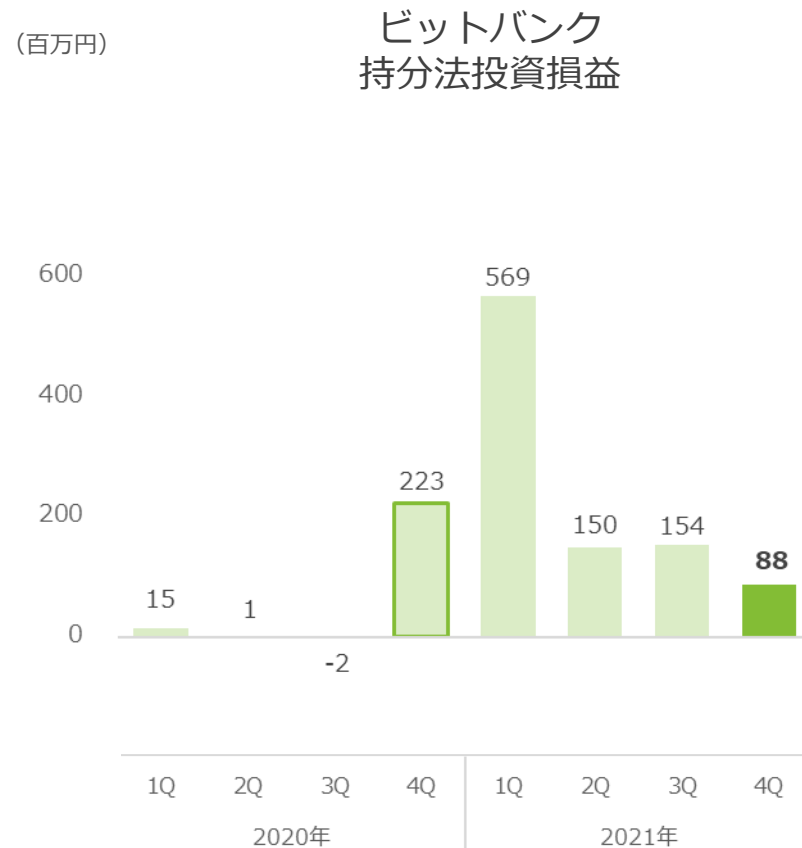
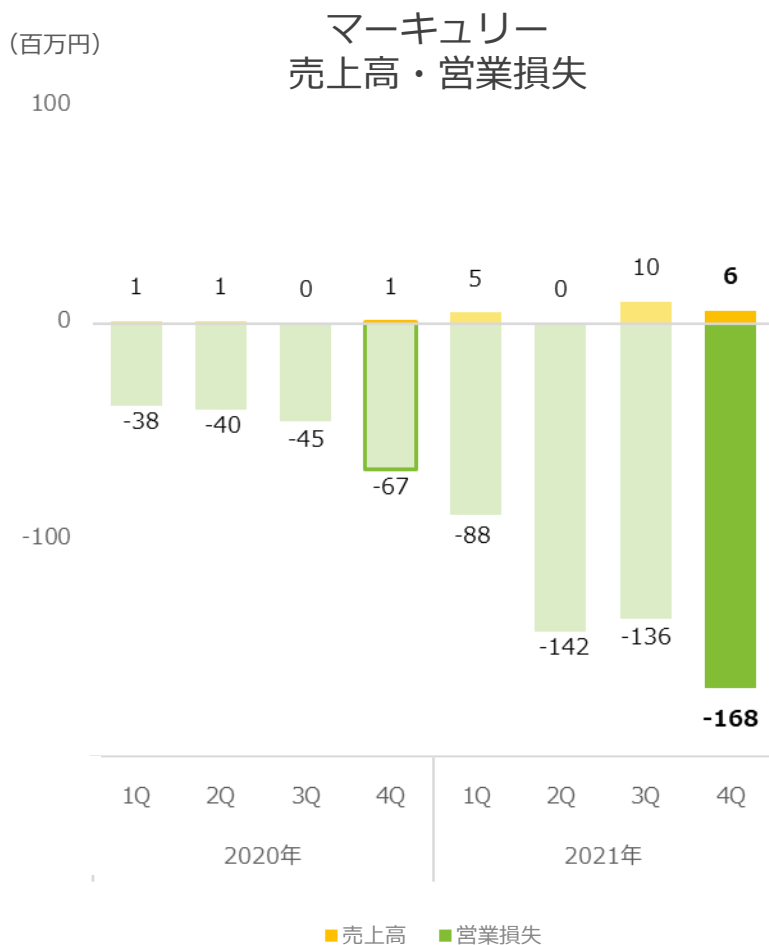
SELECK株式会社



拡大するDXにおける新規顧客開拓とエンジニア採用を強化するために、ビジネスWebメディア「SELECK」を運営するSELECKをゆめみが子会社化



マーキュリー・ビットバンクは中期経営計画2026のブロックチェーン戦略の中核 計画達成に向けた事業拡大のため今期も積極的な先行投資を継続



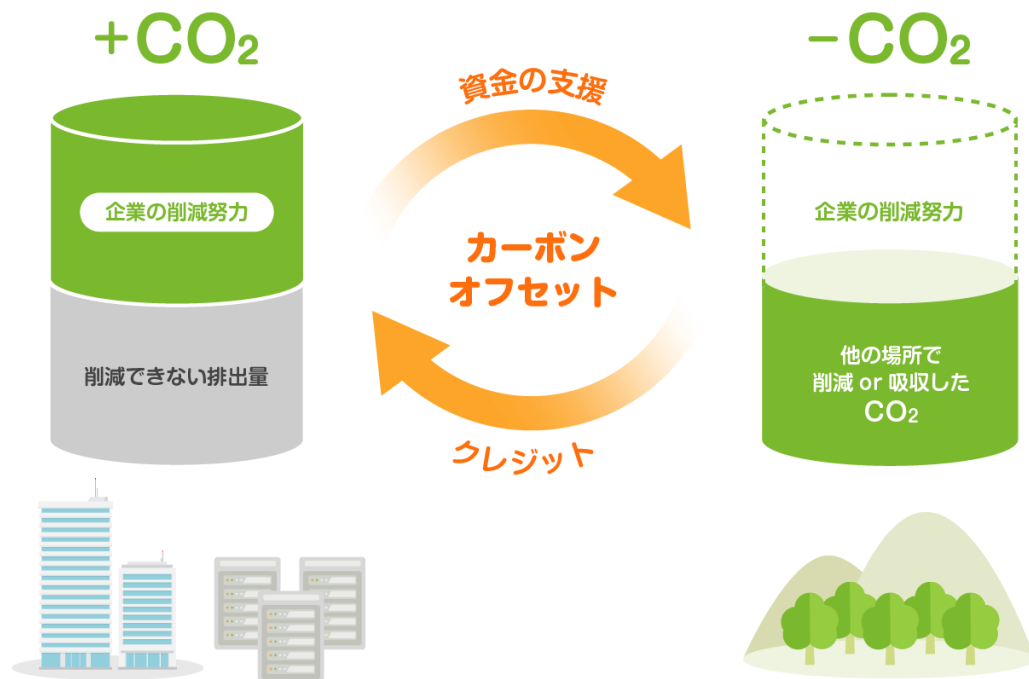
先行投資を継続し中期経営計画2026の達成に向け事業拡大の施策を実行する 新規取扱通貨を拡大し新規会員獲得と預かり資産の拡大を図る





6. APPENDIX

2021年度はセレスグループにおいて「J-クレジット制度」を利用し
温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」を達成

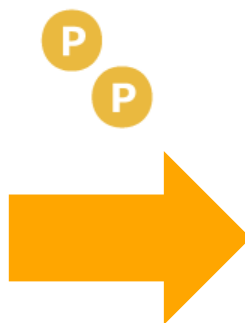


SDGs目標



「モッピー×SDGs」をによるSDGsへの取り組み

「モッピー×SDGs」はSDGs17目標ごとに保有ポイントの寄付が可能
ユーザーがSDGsに取り組む15団体に寄付できるプラットフォーム

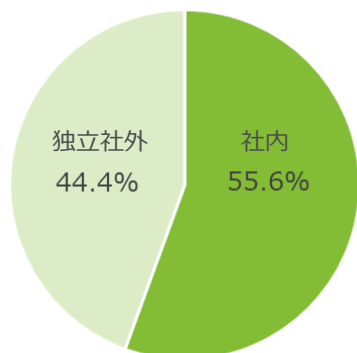


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

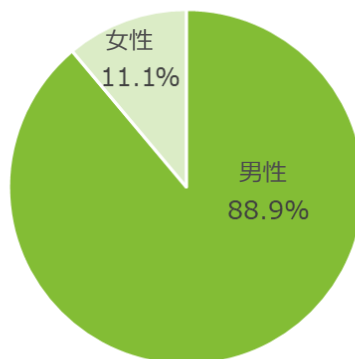


コーポレートガバナンスの取組強化により中長期的な企業価値増大へ 持続的成長のためにジェンダー平等などダイバーシティの充実を推進

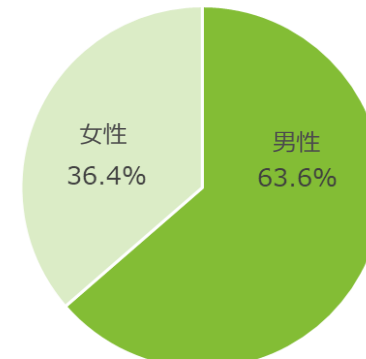
セレス取締役
独立社外取締役比率



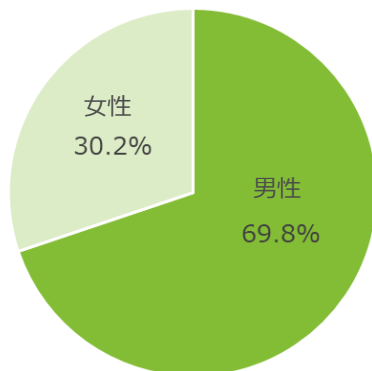
セレス取締役
男女比



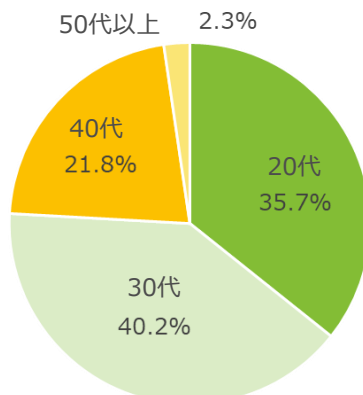
セレス管理職
男女比



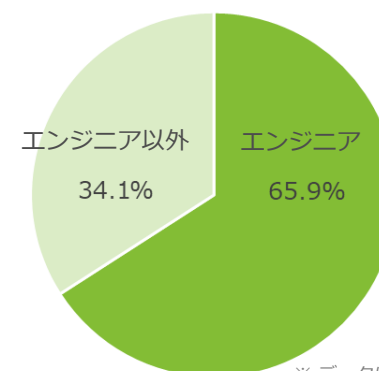
セレスグループ
男女比



セレスグループ
年代別

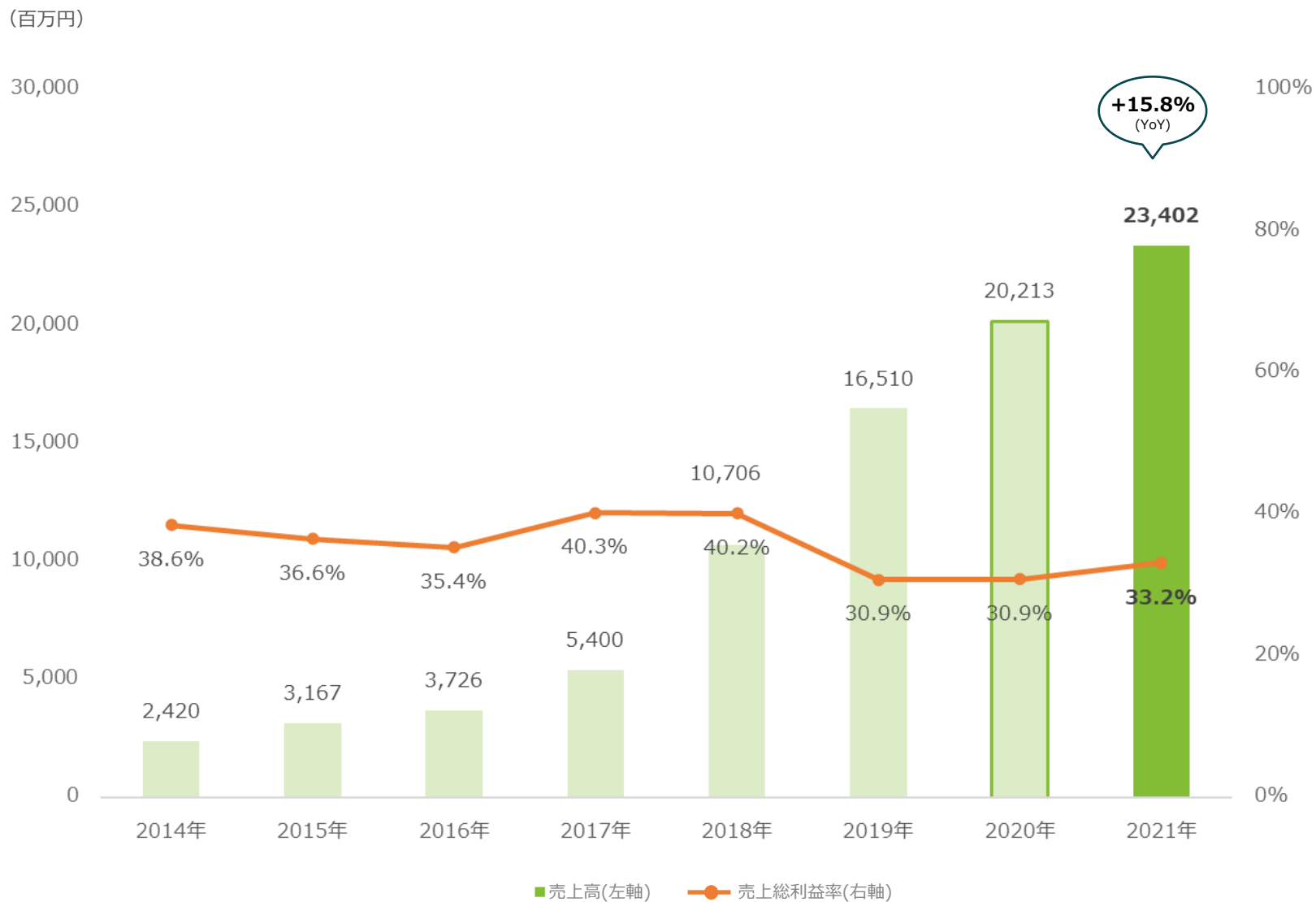


セレスグループ
エンジニア比率

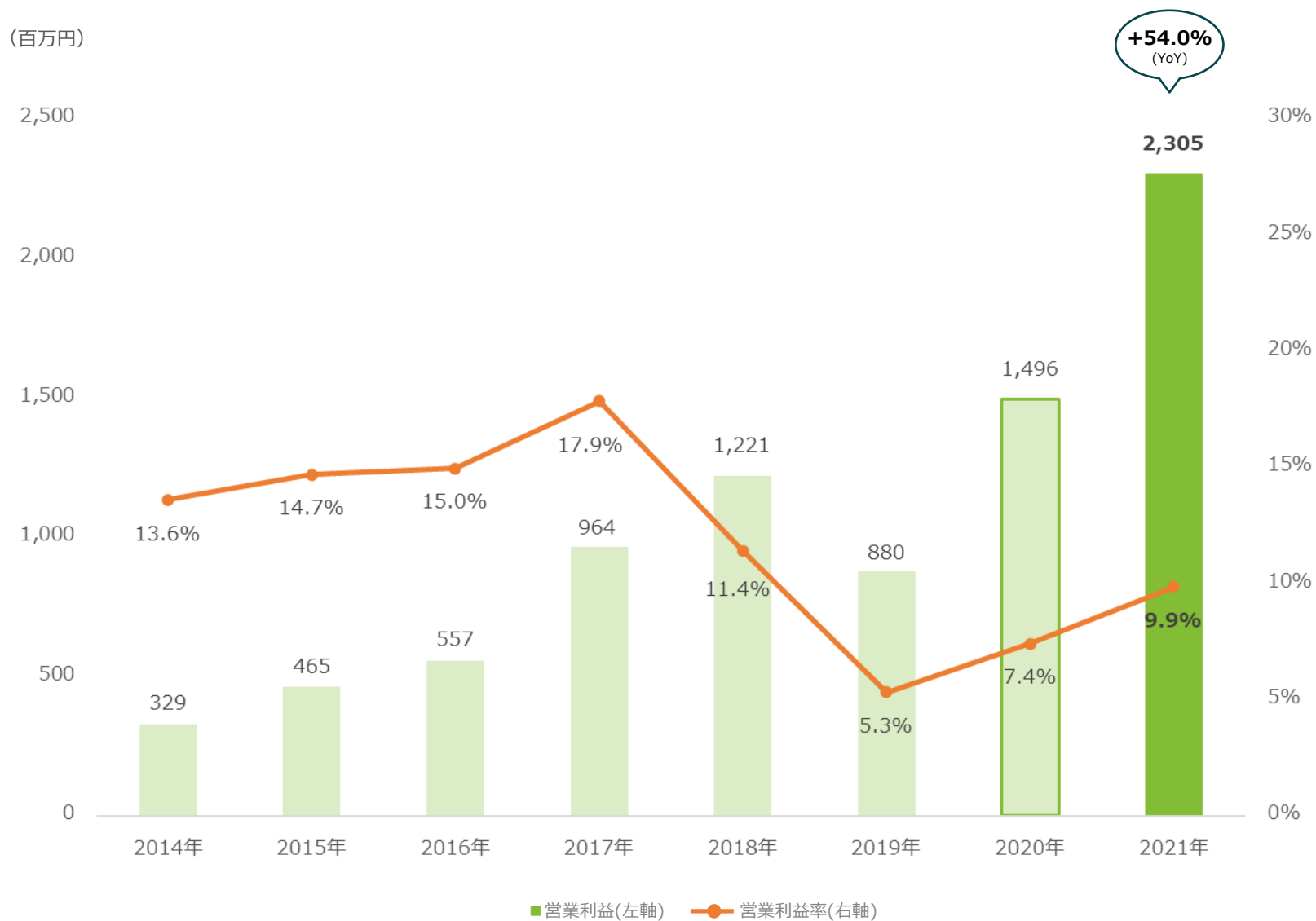


※ データは2021年12月末時点

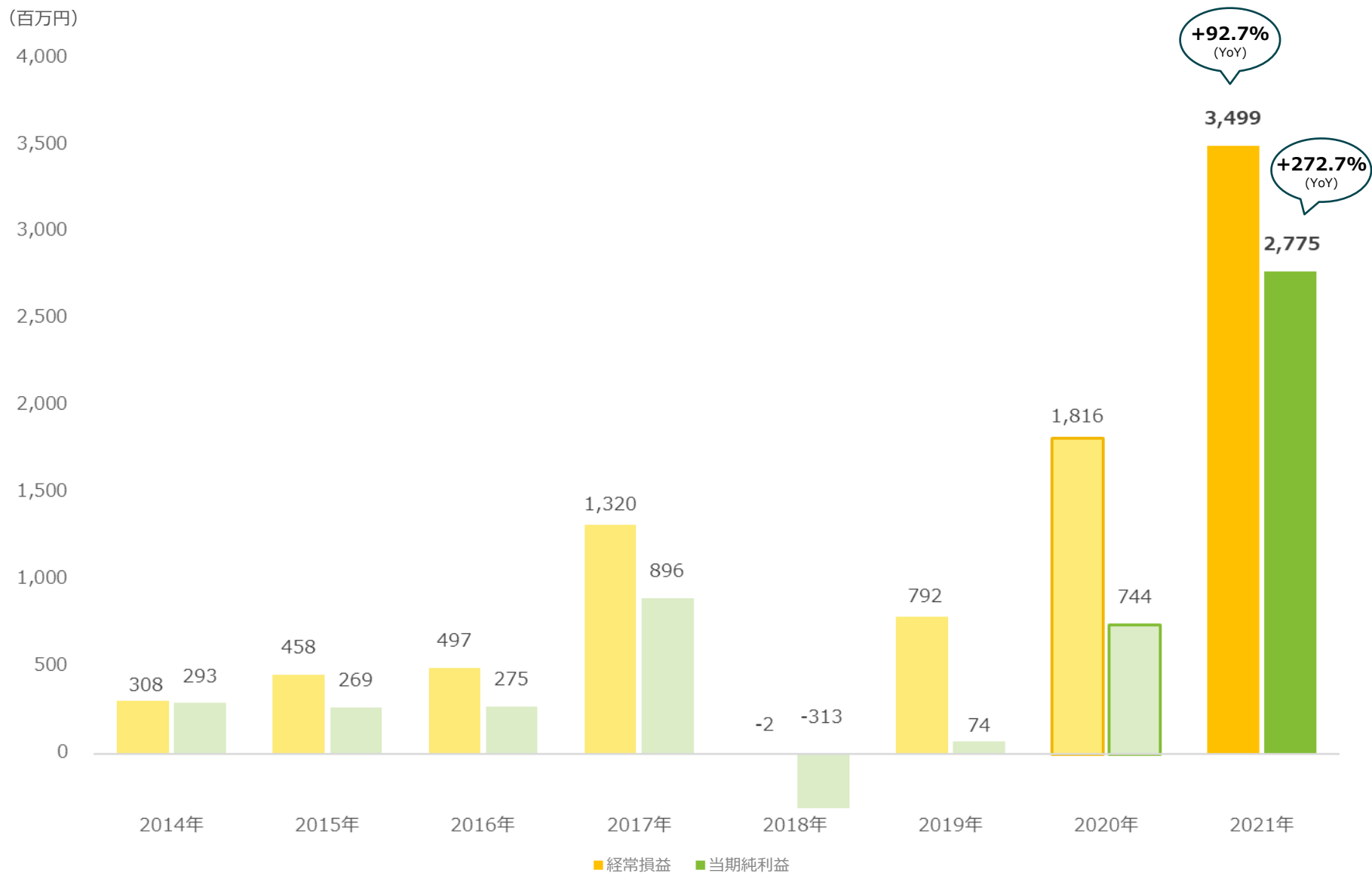
売上高推移



営業利益推移

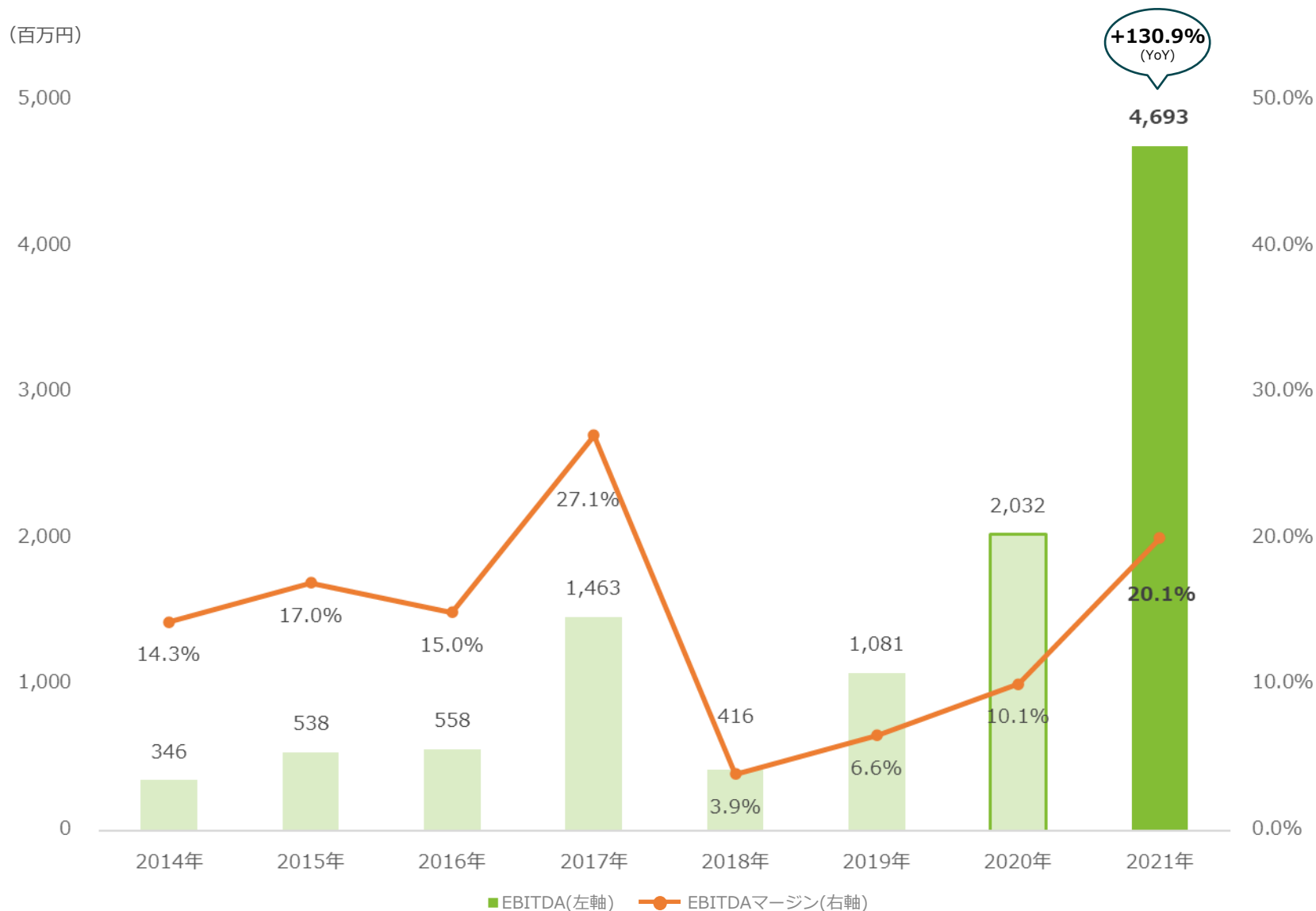


経常損益・当期純利益推移



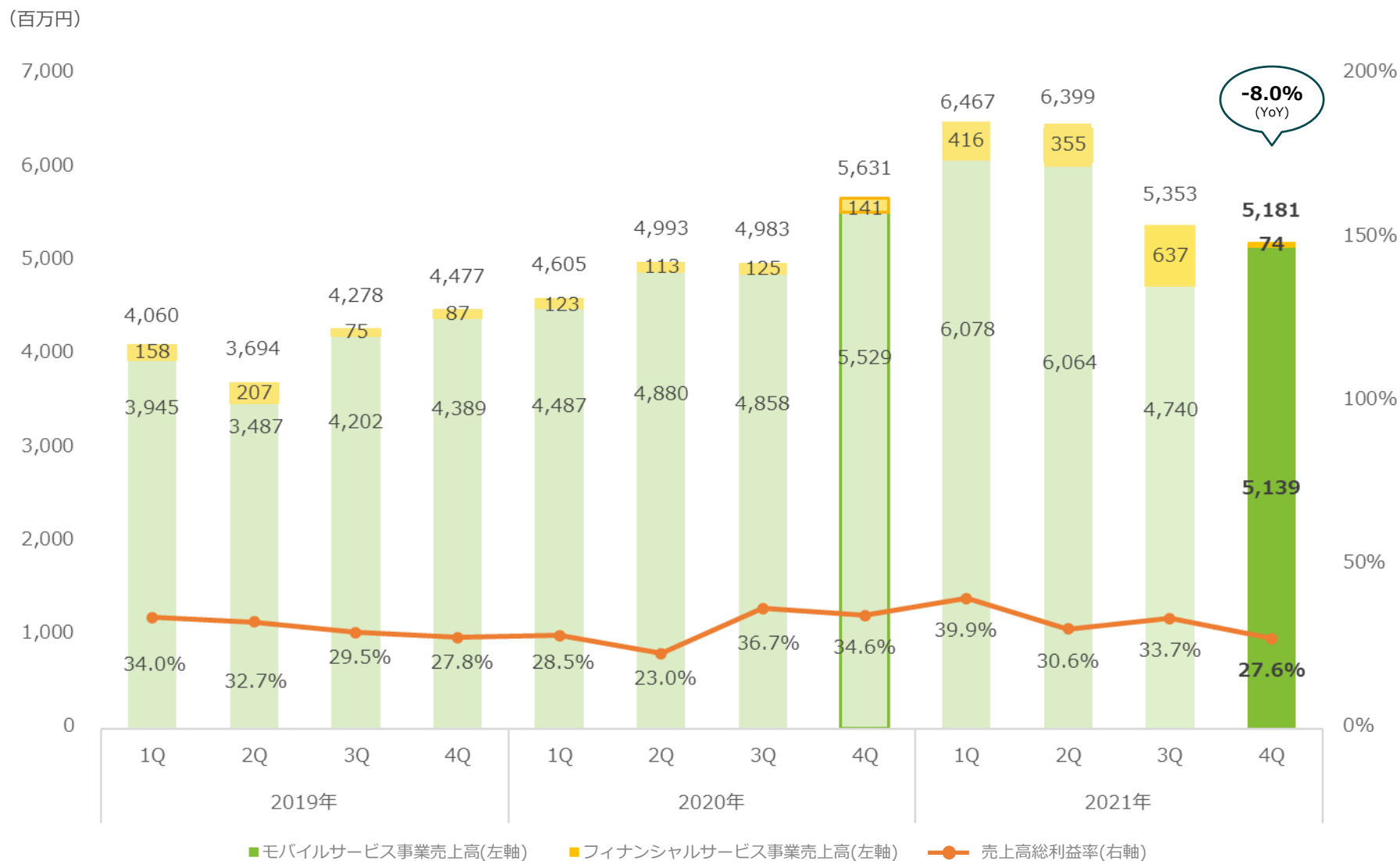
※ 2018年以前の経常損益の数値は「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」適用後の数値を記載しております。

EBITDA推移



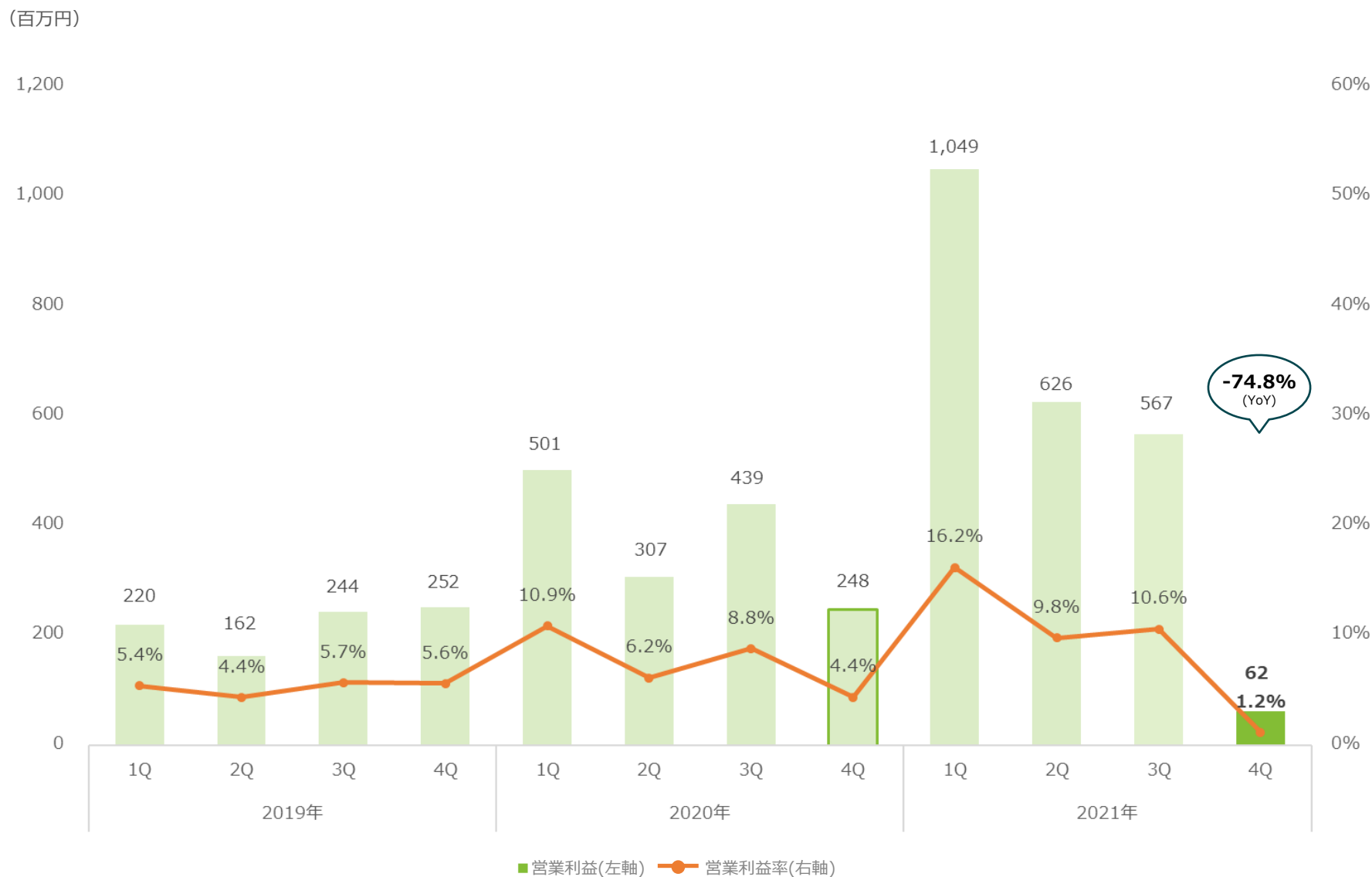
※ 2018年以前のEBITDAの数値は「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」適用後の数値を記載しております。

四半期売上高推移

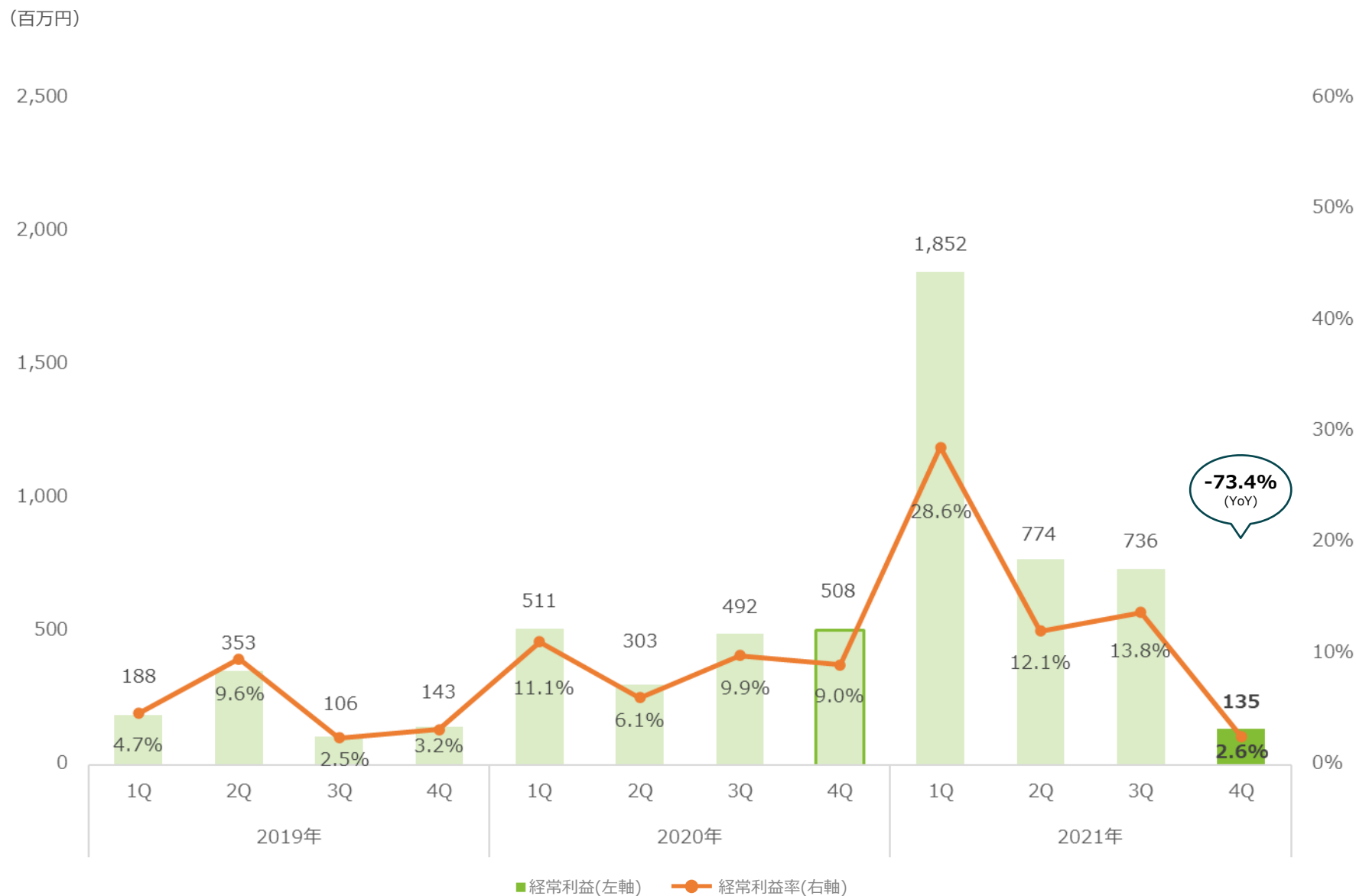


※ セグメント間の内部売上高又は振替高については、グラフに与える影響が軽微のため表記していません。

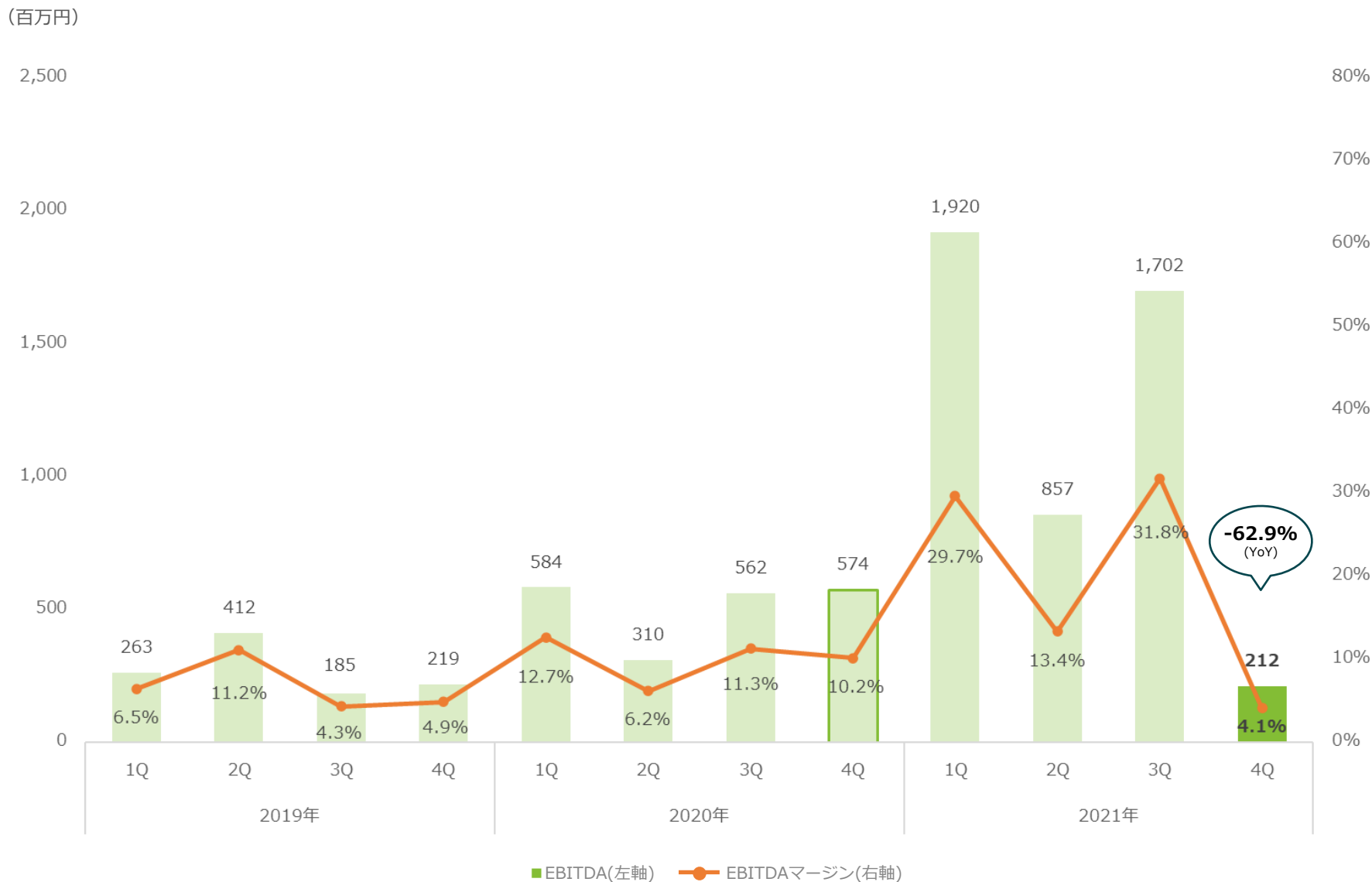
四半期営業利益推移



四半期經常利益推移

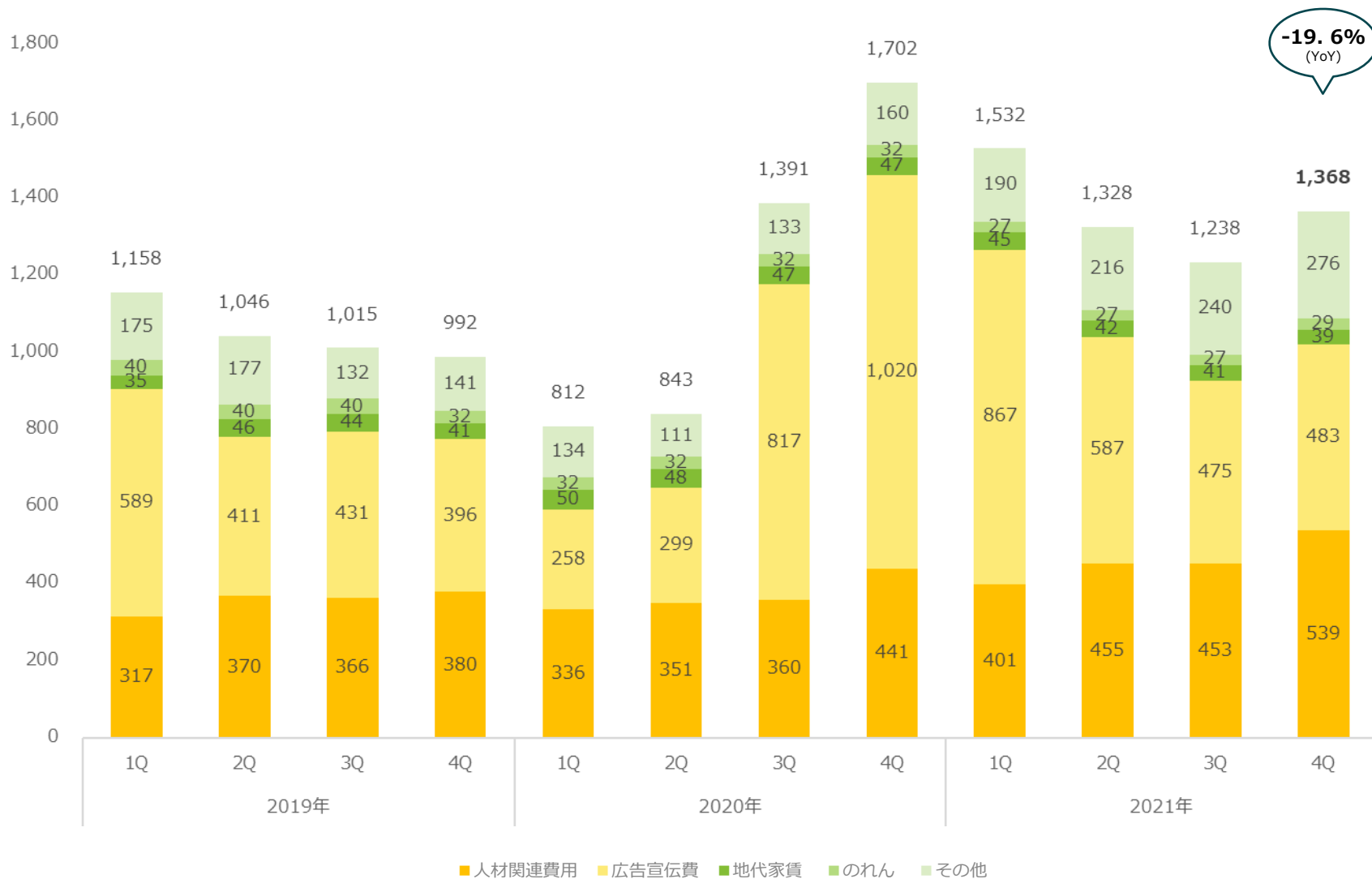


四半期EBITDA推移

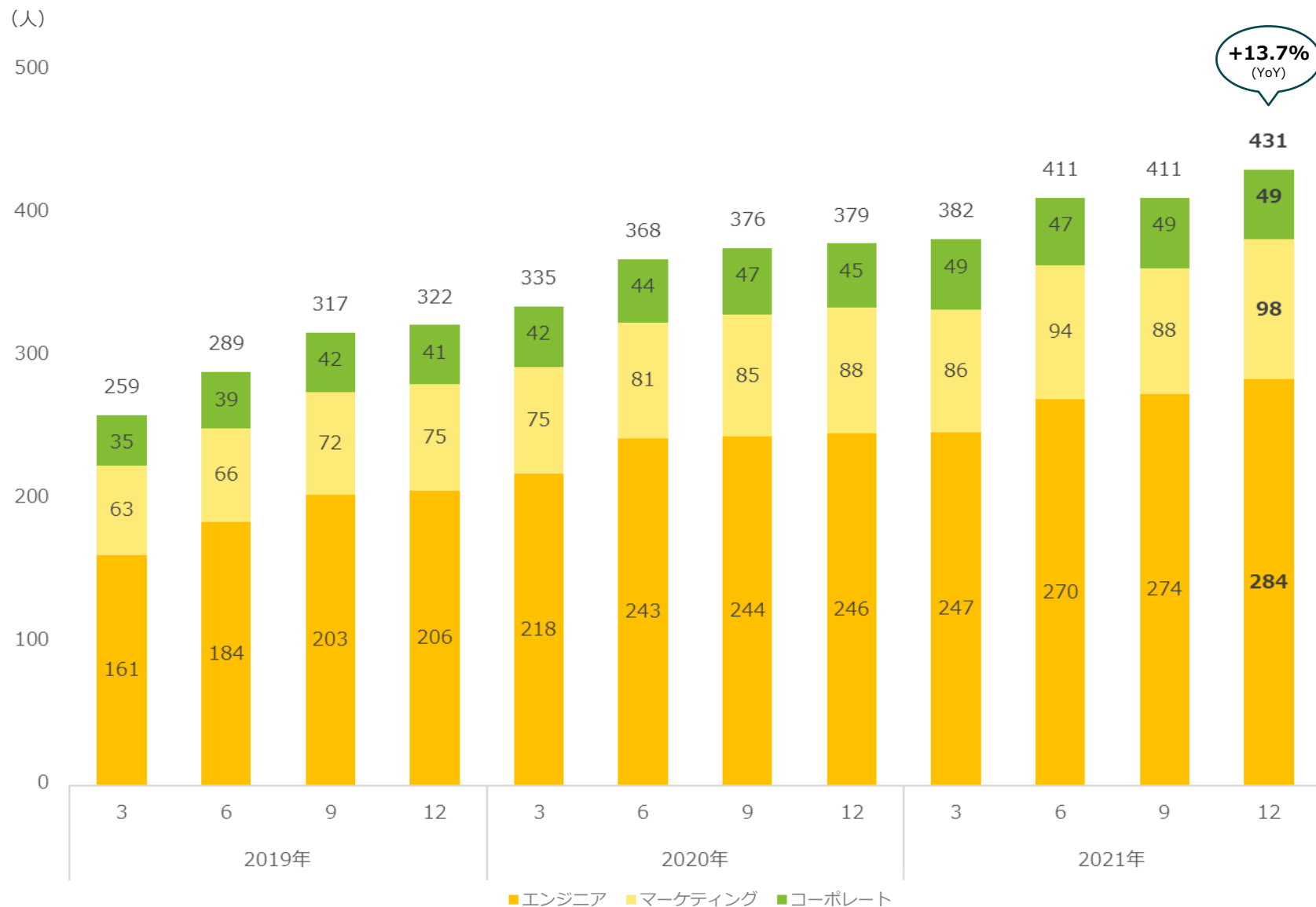


四半期販売費及び一般管理費推移

(百万円)



従業員数推移



※1 契約社員、派遣社員、アルバイト は含まず

業績ハイライト：1

(単位：百万円)	2017年12月期	2018年12月期 (連結)	2019年12月期 (連結)	2020年12月期 (連結)	2021年12月期 (連結)
売上高	5,400	10,706	16,510	20,213	23,402
売上高成長率	44.9%	98.3%	54.2%	22.4%	15.8%
営業利益	964	1,221	880	1,496	2,305
売上高営業利益率	17.9%	11.4%	5.3%	7.4%	9.9%
営業利益成長率	73.1%	26.7%	-27.9%	70.0%	54.0%
経常利益	1,320	-2	792	1,816	3,499
当期純利益※1	896	-313	74	744	2,775
EBITDA※2	1,463	416	1,081	2,032	4,693

※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

業績ハイライト：2

	2017年12月期	2018年12月期 (連結)	2019年12月期 (連結)	2020年12月期 (連結)	2021年12月期 (連結)
総資産 (百万円)	8,237	11,917	12,902	16,227	20,234
純資産 (百万円)	5,830	6,437	6,581	7,091	9,819
ネットキャッシュ (百万円)	2,795	1,319	806	2,154	2,435
ROA (総資産経常利益率)	18.8%	0.0%	6.4%	12.5%	19.2%
ROE (自己資本純利益率)	17.7%	-5.2%	1.2%	11.8%	35.6%
自己資本比率	70.7%	50.4%	47.3%	40.1%	44.8%
D/Eレシオ (負債資本倍率)	13.3%	47.3%	47.6%	55.5%	44.9%
一株当たり当期純利益(円)	86.39	-28.66	6.78	67.32	251.75

四半期売上高

(単位：百万円)	2020年				2021年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	4,605	4,993	4,983	5,631	6,467	6,399	5,353	5,181
モバイルサービス事業	4,487	4,880	4,858	5,529	6,078	6,064	4,740	5,139
ポイントメディア	1,711	1,268	1,192	1,592	2,405	2,367	2,020	2,159
アフィリエイトプログラム	1,735	2,495	1,887	1,934	1,722	1,874	1,189	1,496
コンテンツメディア	335	383	990	1,110	1,201	862	726	809
ゆめみ	704	732	788	893	833	1,035	966	878
セグメント内の振替高	-	-	-	-	-84	-74	-162	-204
フィナンシャルサービス事業	123	113	125	141	416	355	637	74
セグメント間の内部売上高又は振替高	-6	-1	-0	-40	-27	-20	-23	-32

四半期営業利益

(単位：百万円)	2020年				2021年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業利益	501	307	439	248	1,049	626	567	62
モバイルサービス事業	690	534	670	557	1,231	698	556	533
フィナンシャルサービス事業	3	-33	-3	-85	59	140	242	-216
調整額	-192	-193	-227	-223	-242	-213	-231	-254



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。